

平成26年度文部科学省総合的な教師力向上のための調査研究事業
「大学における教員志望学生を対象とした
「実践的教師力育成プログラム」の開発」研究

実施報告書

平成27年3月

研究代表者：佐瀬 一生（千葉大学教育学部）

目 次

I	本調査研究の目的・方法・組織	1
1	本調査の課題意識	1
2	本調査研究の目的	2
3	本調査研究の方法と内容	3
4	本調査研究の組織（構成メンバー）	3
5	本調査研究の位置付け	4
	（1）千葉大学と教育委員会の連携・協働の全体概要図	4
	（2）本調査研究の構造図	4
II	本調査研究の実際	5
1	連携先との協議会・会議等	5
	（1）連携協議会	5
	（2）教員研修に係る実務者ワーキンググループ	6
	（3）その他	6
2	実践的教師力育成プログラム「実践的教師力育成講座」	7
	（1）講座の全体構造	7
	（2）第1クール（3年生後期プログラム）	9
	（3）第2クール（4年生4～7月プログラム）	12
	（4）第3クール（4年生7・8月プログラム）	15
	（5）第4クール（4年生後期プログラム）	18
	（6）評価及び考察	24
3	教員養成段階での実践的教師力に関する調査（1）	
	～アンケート聞き取り調査	3 4
	（1）アンケート調査の意図と内容	34
	（2）アンケート調査の結果と考察	35
4	教員養成段階での実践的教師力に関する調査（2）	
	～全国教育委員会等「教師塾」活動調査	3 9
	（1）調査の方法及び内容	39
	（2）調査の実際	43
5	その他	6 0
	（1）既存授業の検討	60
	（2）他大学の実践的教師力育成プログラム	60
	（3）授業力DVD教材の活用	60
III	まとめ	6 1

I 本調査研究の目的・方法・組織

1 本調査研究を行うにあたっての課題認識

現在、千葉県では教員の大量採用が続いており、平成26年度採用者では1800人を超えている（小学校831人、中学校・高等学校781人、特別支援学校152人、養護教諭43人）。特に都市部では、教員の半分が30歳以下、という学校も珍しくない。このような状況の中で、初任者教員でも即戦力としての力が強く求められている。しかし一方で、初任者を含む若年層教員の離職が増加し（条件付採用期間の依願退職者は平成18～22年の統計で各年約300名、うち病気理由が各年約100名おり、ほとんどが精神性疾患）、離職までは至らずとも病気休暇・療養休暇を取っている者はさらに多くいる。

「ワイングラス型」の教員年齢構成の中で、「先輩」としてモデルになるミドル層教員の人数が非常に少ないことにより、ベテラン層教員とのコミュニケーションの難しさから、若年層教員内で互いに抱える諸課題が解決できにくいという問題も指摘されている。悩める若年層教員の中でも、特に初任者教員はすべてが初体験の毎日であり、先が見えない、何をしたらよいかわからないという不安にまみれる1年間を過ごしている。「見えない・わからない不安」を「見える・わかる課題」にすることが、それに備え、向かい、自分なりに解決の方向性と方策を考え、持てることにつながる。

大学の授業等において学生とやり取りしても、多くの学生が、教員として仕事をして行くことに対する大きな不安を抱いていることがうかがえる。それは、教員を目指す学生にとって、大学における自らの学びと教職との結びつきが見えにくく、何をしたらよいかのわかりにくいことが大きな要因となっている。不安をなくし希望と期待を大きく持てるようにさせていくことが必要である。そのためには、大学在学中でも学校現場を「見える・わかる」状態であることが極めて重要であり、卒業前にいかに学校現場や教員の職務について具体的に理解し、実践的教師力を身に付けるか、を喫緊の課題として取り組んでいく必要がある。

現在、千葉県教育委員会では「ちば！教職たまごプロジェクト」の名称で教職インターンシップを展開している。教職インターンシップについては数多くの市（町村）でも「学習ボランティア」「学校サポーター」等の名称で行っている。これらインターンシップ事業は、フレッシュでやる気に溢れる学生が子供たちとかかわることにより、学校にとってもさまざまな効果を生むとともに、その学生自身にとっても学校現場の状況を実感的理解できる、双方にとって有効なものである。また、千葉県総合教育センターでは平成25年度まで「教職たまご塾」の名称で年3回の講習（各回同じ内容）を開催している。

これらのインターンシップや塾等の諸事業は、県及び各市の教育行政が主体になって行っているものである。教師塾については、東京都や埼玉県等多くの都道府県等において、各教育委員会の事業として長期間にわたり実施している例もある。しかし、東京都・埼玉県、そして千葉県のように毎年千数百人もの採用者がいる中にあっては、学校現場の状況を教育実習以外にはほとんど知らないまま教員になる学生が極めて多くいる。

教員には幅広い資質能力が求められ、大きく「教職に対する責任感、探究力、教職生活

全体を通じて自主的に学び続ける力」「専門職としての高度な知識・技能」「総合的な人間力」にまとめられる（教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上策について／平成24年5月／中央教育審議会）。初任者においては、これらの基本的な部分は身につけて教員になることが必要であるが、残念ながらあまり身につけていないと思わざるを得ない初任者（を含む若年層）教員も少なからず見られる。

教員養成段階からの大学と教育委員会の連携・協働が重要ではあるが、何より教員養成の主体である各大学において、教員として必要な資質能力を十分に身につけさせ、社会に送り出すことが重要である。しかし、大学のカリキュラムにおいては、知識・技能等の獲得に関しては多く行われているものの、特に、実践的教師力に直結する学生自身の人間力（人間性や社会性、コミュニケーション力、人間関係形成力等）育成については、基本的に各学生自身の問題として扱われ、カリキュラムにおいて育成する位置づけにはなりにくいために弱い傾向があることも事実である。都道府県等教育委員会が「教師塾」を展開していること自体が、大学に教員養成を任せきれないという意識や危機感の表れなのかもしれない。

教員養成段階において、大学が主体となって、教師塾のような実践的教師力を育成するプログラムをさらに積極的に実施する必要があるのではないか。各大学においてそのプログラムが展開されれば、初任者教員の抱えている「ギャップとショック」を緩和し、よりスムーズに教員生活を進めていくことができるものとする。その際に、地元教育委員会との連携・協働を図り、プログラムにも協力いただくようにすることで、大学（学部）・地元教育行政・そして学生（教員）自身の誰もが「WIN-WIN」となる状況につながるであろうと考える。

本学部はミッションの再定義により「千葉県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す大学として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、千葉県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図るものとする」と位置づいている。このことに基づき、国立大学法人大学の教員養成学部として、教員志望の学生に対して、今まで以上に教員として必要な資質能力を身につけ向上できるカリキュラムを提供し、本学部を卒業した教員が同期教員集団をリードする存在になれるようにする必要があろう。

以上のことから、十分な学校現場や教員の職務に対する理解と、現場での実践的な教師力の発揮に直結する学生自身の人間力育成を図りながら、教員生活につながる「実践的教師力育成プログラム」を開発し、千葉県教育委員会と連携・協働して、本学部を卒業して教員になる学生の教員としてのさらなる資質能力向上を図りたい。

2 本調査研究の目的

本調査研究では、教員になる学生に対する大学としての「実践的教師力育成プログラム」のあり方を、教員志望の学生を対象としたプログラムの開発を通して検討していくことを目的とする。

3 本調査研究の方法と内容

本調査研究の目的を達成していくために、教職に就く前までに必要な実践的教師力に関する学生自身及び教育現場の意識調査を行い、分析及び類型的整理を行う。また、現在行われている各都道府県等における教師塾の内容や大学のかかわり等を調査する。そして、これまで教員採用直前講座等で行ってきた実践を活かし、教職を目指す学生に対する実践的教師力を育成するプログラムを開発・実践し検討することで、より効果的・効率的なシステムやプログラムのあり方を考察していく。

本調査研究の展開にあたっては、具体的プログラムを構想・実施していく中で、大学・行政・学校の連携・協働の体制づくりや具体的方策、そしてプログラムのあり方・内容等を明確なものにしていくために、調査や事業を通した研究活動を実施した。その際に、会議・打合せ等を定期的の実施して共通理解や情報の共有化を図りつつ進めるようにした。具体的には以下の通りである。

- (1) 連携先との協議会・会議等
 - ア) 連携協議会
 - ・期間内2回を予定（実際には1回実施）
 - イ) 教員研修に係る実務者ワーキンググループ（WG／千葉大学・千葉県教育委員会）
 - ウ) その他
 - 大学内メンバー会議 ○その他、日常的な連絡・協議
- (2) 実践的教師力育成プログラム「実践的教師力育成講座」の実施
 - 第1クール（3年後期） ○第2クール（4年前期4～7月）
 - 第3クール（4年前期7～8月） ○第4クール（4年後期）
- (3) 既存授業の検討・評価
- (4) 教員養成段階での実践的教師力に関する調査の実施
 - ア) アンケート聞き取り調査（学生・学校教員・教育行政職員）
 - イ) 全国教育委員会等「教師塾」活動調査

4 本調査研究の組織（構成メンバー）

【千葉大学教育学部】

佐瀬 一生 准教授（研究代表） / 保坂 亨 教授
戸田 善治 教授 / 藤川 大祐 教授 / 伏見 陽児 教授
土田 雄一 特任教授 / 笠井 孝久 准教授 / 磯邊 聡 准教授

【千葉県教育委員会教育振興部指導課】

吉川 廣一 主席指導主事 / 稲川 一男 指導主事

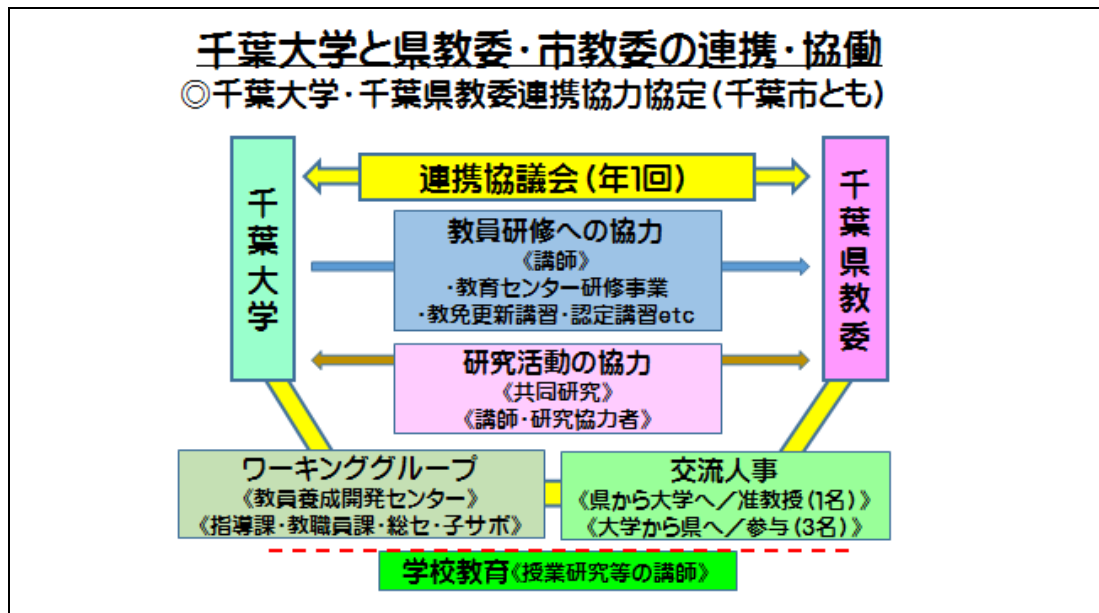
【千葉県総合教育センター研修企画部】

國吉 正彦 研究指導主事 / 塩田 恭子 研究指導主事

5 本調査研究の位置付け

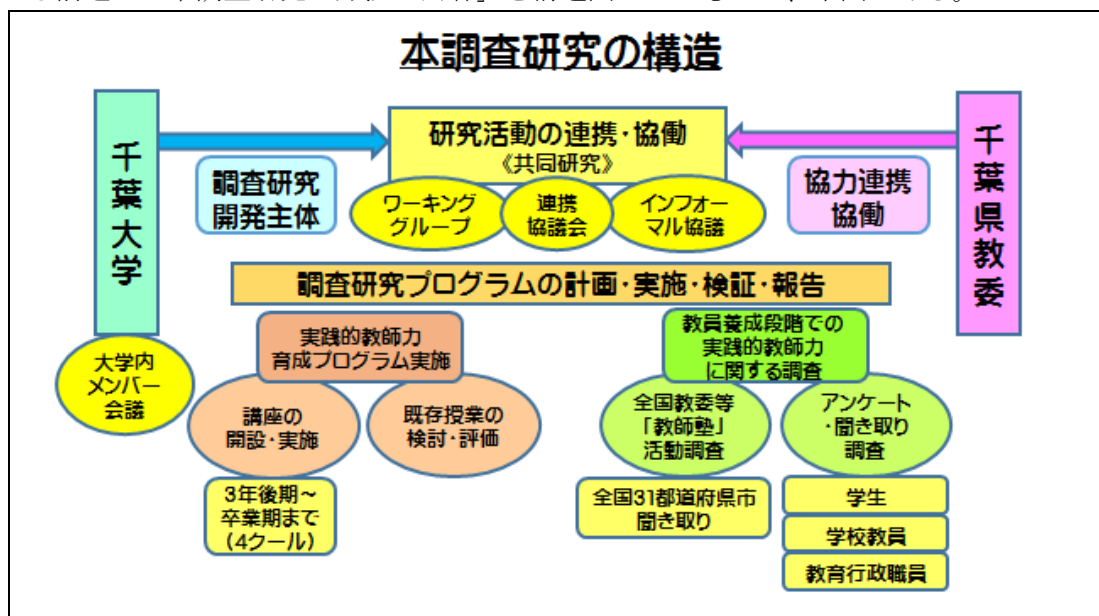
(1) 千葉大学と教育委員会の連携・協働の全体概要図

○本調査研究は、図中の「研究活動の協力」に含まれる。



(2) 本調査研究の構造図

○前述の「本調査研究の方法と内容」を構造図にしたものが、下図である。



Ⅱ 本調査研究の実際

1 連携先との協議会・会議等

(1) 連携協議会

【開催日】平成27年1月8日（木）

【参加者】

独立行政法人教員研修センター事業部基幹研修課

高井 修 課長 / 土屋 研 第一グループ主幹

千葉県教育庁教育振興部指導課

小川 哲史 指導課長 / 吉川 廣一 主席指導主事

稲川 一男 指導主事

千葉県教育庁教育振興部教職員課

篠木 賢正 主席管理主事兼免許班長 / 内田 隆二 管理主事

千葉県総合教育センター研修企画部

國吉 正彦 研究指導主事 / 塩田 恭子 研究指導主事

千葉大学教育学部附属教員養成開発センター

保坂 亨 センター長・教授 / 伏見 陽児 教授

土田 雄一 特任教授 / 磯邊 聡 准教授 / 佐瀬 一生 准教授

【内容】

○協議・報告

○本調査研究の実施内容と成果について

○加えて、以下の事項についても協議・報告を行った。

- ・本調査研究と同様に文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」として実施した「長期研修制度（大学派遣）を活用した大学・県教育委員会・（独）教員研修センターの連携・協働によるミドル層教員の総合的マネジメント力向上プログラムの開発」研究について
- ・千葉大学・千葉県教育委員会の連携・協働事業関係について
 - ・教員免許状更新講習について
（平成26年度実施及び平成27年度見通し）
 - ・長期研修生（委託研究生）受け入れ事業について
（平成26年度実施及び平成27年度見通し）
- ・今後の連携・協働活動の方向性について

(2) 教員養成・研修に係る実務者ワーキンググループ (WG／千葉大学・千葉県教育委員会)

【開催日】

- 第1回／平成26年5月17日（木）
- 第2回／平成26年7月21日（木）
- 第3回／平成26年9月19日（木）
- 第4回／平成26年11月12日（水）
- 第5回／平成27年1月8日（木）
- 第6回／平成27年3月19日（木）

【メンバー】

千葉県教育庁教育振興部指導課

吉川 廣一 主席指導主事 ／ 稲川 一男 指導主事

千葉県教育庁教育振興部教職員課

篠木 賢正 主席管理主事兼免許班長 ／ 内田 隆二 管理主事

千葉県総合教育センター研修企画部

國吉 正彦 研究指導主事 ／ 塩田 恭子 研究指導主事

千葉県子どもと親のサポートセンター

岡 清志 主席研究指導主事兼教育相談部長

伊豆 守彦 主席研究指導主事兼支援事業部長

千葉大学教育学部附属教員養成開発センター

保坂 亨 センター長（教授） ／ 伏見 陽児 教授

土田 雄一 特任教授 ／ 笠井 隆久 准教授 ／ 磯邊 聡 准教授

佐瀬 一生 准教授

【内容】

- 2か月に1回のペースで、千葉大学と千葉県教育委員会各部署の実務担当者が集まり、教員養成・研修に係る実務的な協議を行っている。内容は例えば教員免許状更新講習、長期研修生指導、県教育委員会実施教員研修等の情報交換や、今後の教員研修のあり方、大学と教育委員会・学校との連携・協働の進展についてである。このWGで本調査研究も内容の1つに組み込んで、情報交換や内容協議を行った。

(3) その他

- 大学内メンバー会議として、内容に応じて教員養成開発センター教室会議や教員養成カリキュラム委員会の会議の場を利用して協議・報告を行った。
- その他、日常的にメールや電話、そして訪問により、千葉県教育庁・千葉県総合教育センターを始め諸関係機関との連絡を密に行った。

1 実践的教師力育成プログラム「実践的教師力育成講座」

(1) 講座の全体構造

本講座は、平成25年度にスタートした大学の教育課程の総仕上げとしての必修授業である教職実践演習を補完しつつ、大学での学びと教職生活を結び付け、その過程に教員採用を位置付けるものとして構想し構成した。

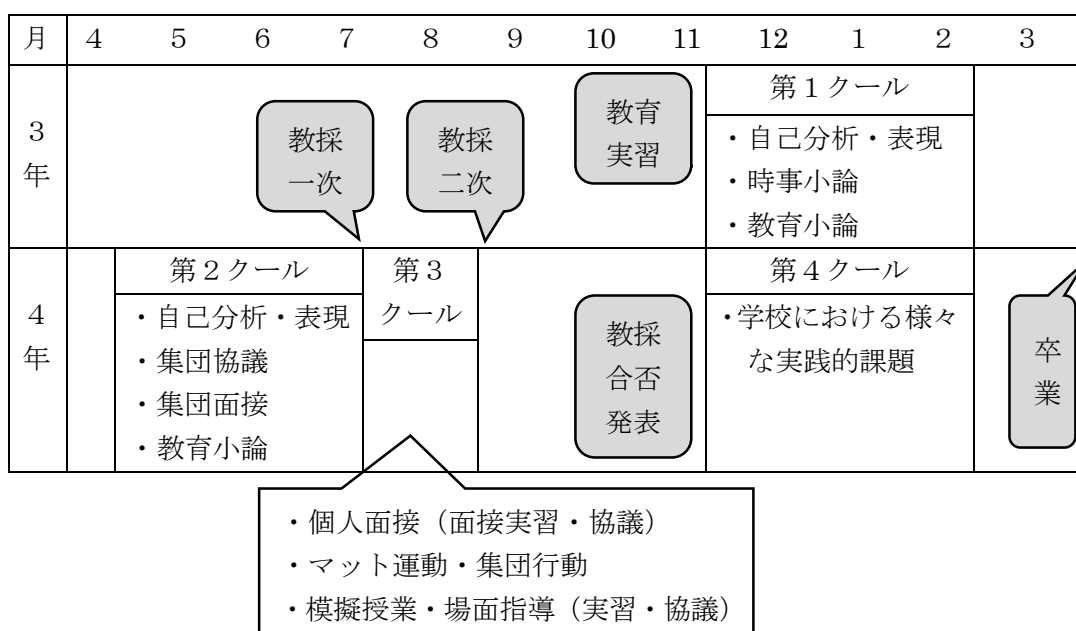
具体的には、全体を3年次後期から4年次後期までの1年半とし、第1クールを3年次後期、第2クールを4年次前期（4～7月）、第3クールを4年次前期（7～8月）、第4クールを4年次後期の3期を通したプログラムとして構成して、その中で実践的教師力を幅広く育成するようにしたいと考える。平成26年度の研究期間内においては、平成27年度に教職に就く予定の4年次学生について授業前期期間から第2～4クールプログラムを行い、平成28年度に教職に就く予定の第3年次学生について授業後期期間から第1クールプログラムを行うようにする。

授業としてではなく、講座（単位なし）として設定することで、シラバスを基本としつつも受講者の実態やニーズ等に応じて柔軟に修正し、具体的場面の設定による実践的演習等を通した実感的理解につながるものにする。その際、プログラムの内容や項目、実施方法等について千葉県教育庁や千葉県総合教育センターと協議する中で整理しセレクトするとともに、それらの機関の職員に講師としてかかわっていただくなどして、千葉県教育委員会との連携・協働を積極的に図りたい。

この1年半の期間にわたる講座を一連のものとして構成することで、教員採用試験をその過程の中に位置付けつつ、受講生が教職生活の理解を深めながら実践的教師力を身に付けていくようにする。このことが、卒業後の教職生活において自分らしさ・よさを生かしながら「即戦力」としての力を発揮していくことにつながると考える。そして、このプログラム実践を通して、より学校現場に直結した実践を展開でき、大学・教育委員会・そして学生自身それぞれが「WIN-WIN」になれる関係がより進められるものと考ええる。

なお、本講座における「実践的教師力」については、教師に求められる資質能力の総体が「教師力」であり、それらを教育実践で発揮できる力が「実践的教師力」とあるという捉えである。ここで言う「教師に求められる資質能力」とは、例えば、中央教育審議会答申（平成18年7月）では「使命感や責任感、教育的愛情等」「社会性や対人間関係能力」「幼児児童生徒理解や学級経営等」「教科・保育内容等の指導力」として¹⁾、中央教育審議会答申（平成24年5月）では「教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」「専門職としての高度な知識・技能」「総合的な人間力」として²⁾示されている。また「実践的教師力」は、文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」公募要領にある「実践的指導力」³⁾の基盤あるいは素地となる「その人自身の人間性」も含むものとして捉えている。

本講座の全体構造の概要は次ページ図1の通りである。



【図1】実践的教師力育成講座の全体構造の概要

【注】

- 1) 中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）Ⅱ．教員養成・免許制度の改革の具体的方策 1．教職課程の質的水準の向上 (2)『教職実践演習（仮称）』の新設・必修化」2006において、「教職実践演習（仮称）の履修を通じて、教員として必要な資質能力の確実な確認が行われるようにするためには、教職課程の他の科目と同様、この科目に含めることが必要な事項を、法令上、明確にすることが必要である。当該科目の目的等を考慮すると、具体的には、教員として求められる以下の4つの事項を含めることとすることが適当である」として、文中の4つが挙げられている。
- 2) 中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）Ⅰ．現状と課題 2．これからの教員に求められる資質能力」pp2-3、2012。なお、これら3つについては「これらは、それぞれ独立して存在するのではなく、省察する中で相互に関連し合いながら形成されることに留意する必要がある」としている。
- 3) 平成26年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」公募要領p1他。P1には、この事業の趣旨として「実践的指導力を身に付けた教員や、教職員を指揮監督して学校を適切にマネジメントし責務を全うできる管理職の確保・育成に向けた総合的な教師力向上の取組を推進する」とある。

(2) 第1クール(3年生後期プログラム)

ア. 講座の概要

- 1) 講座テーマ 社会を見つめる、社会とかかわる
 ／自分を見つめる、自分とかかわる

- 2) 講座開設の理由

「学校の常識は世間の非常識」「学校の先生は世の中を知らない」等、よく言われることである。教員は基本的に「学校」という限られた空間の中で子どもを相手に毎日朝から晩まで過ごしていて、外社会と関わりは薄い。また、教員の多くが学生からそのまま教員になっていて他の社会を経験していない。そのような中で、世間一般とのズレが大きくなっている面も確かに否めないことではある。

しかし、学校教育で子どもたちに育てようとしているものは、その子どもが将来・生涯にわたって生きて働くような資質・能力(「生きる力」という言葉に集約されている)である。その教育を担う教師自身が「生きる力」を持ち、発揮できるか否かが、子どもへの教育活動において決定的な鍵を握る。

その資質・能力は大学における教員養成段階から養っていくことが大切であり、大学における各授業の中でも、適宜取り上げられていると思う。

本講座は、受講生の資質・能力を「社会への眼を育てる」「思考力・表現力を育てる」「他とのかかわりの中で学び合い高め合う」ことをねらいにして、「自分の思いや考えを文章化し、集団協議する」活動として構成したものである。一人一人が社会(世の中)に目を向け、様々な出来事に気づき、見つめ、考え、表現する資質・能力を高めるとともに、さらに受講生同士で協議し意見交換をすることを通して、個々の見方考え方をより多面的・多角的なものにし、さらにプラスの人間関係づくりに主体的に向かう態度を培うものと考えている。

このことをメインにしながら、加えて「自己分析・表現」を通した自己理解を深める活動も展開する。

これらは、教員採用選考においても非常に重要な事柄であり、その突破(合格)の上でも有効に働くものである。しかし、本講座はその突破(合格)を目的とするものではなく、その先にある、学校現場での毎日の実践に必要な「実践的教師力の獲得」につなげることを目的とする。

- 3) 実施期間及びコマ

○実施期間 平成26年10月27日(月)～平成27年2月9日(月)

○実施コマ 週1コマ。基本コマは月曜日5限(計10コマ)

- 4) 募集対象

○小・中学校の教員を志望する学部3年生。

○いい加減な気持ちではなく、全講座を通して主体的に参加する強い意志を持つ者(やむを得ない理由のある場合は欠席を認めるので必ず申し出る)。

○講座参加について指導教員の承諾を得られた者。

- 5) 募集人数及び時期、手順

○募集人数・・・30名(先着順)

○募集時期・・・平成26年10月3日（金）～20日（月）

○手順

- ①学生支援係に置いてあるこの用紙を受け取る。
- ②10/20（月）までに、担当（佐瀬）まで連絡（メール・電話）する。
日時を調整の上、一度直接担当（佐瀬）と話し、内容等確認の上、受講申込書を受け取る。（先着順で人数枠達成の時点で以降打ち切る）
- ③所定の事項を記入した上で、指導教員からサイン・押印をもらう。
- ④受講申込書を担当（佐瀬）まで提出する。

6) 講座内容

①時事小論

社会の様々な出来事（新聞やテレビ等のニュース）の中から各自が“気になる”ものを取り上げて、それへの思いや考えを文章にまとめ、受講生同士で協議し合う活動を通して、社会への目を養う。

②自己分析・理解・表現

自己分析シートや協議、演習を通して、各々が自分を見つめ、分析し、表現する活動により、自己理解を深める。

③教育小論

教育の重点事項や課題の中から毎回テーマを設定し、それに対する思いや考えを文章にまとめ、受講生同士で協議し合う活動を通して、教育への目や意識を養う。

7) 担当（講師） 佐瀬 一生（本学部教員／教員養成開発センター）

イ. 講座の実際

1) 参加者 16名

2) 講座スケジュールと内容

時	月日	内 容	時	月日	内 容
1	10/27	ガイダンス、自己分析①	6	12/15	時事小論④
2	11/10	時事小論①	7	1/19	教育小論①
3	11/17	時事小論②	8	1/26	教育小論②
4	12/1	自己分析②	9	2/2	教育小論③
5	12/8	時事小論③	10	2/9	教育小論④

3) 講座の具体的内容及び状況

【第1時】ガイダンス、自己分析①

- 申込み者16名のうち半数が11月前半まで教育実習にかかってしまっているため、講座開始段階で教育実習を終了した5名でスタートした。
- ガイダンスでは、本講座のねらいと内容を説明した後、教員採用試験までの心構えや取組の仕方についてレクチャーをした。具体的には、「教員採用試験合格は目的ではなく、教職生活に入るためのステップであること」「従って、教員採用試験をどうクリアするかが問題ではなく、教員採用試験を

通して自分の教師力の基盤をつくり、試験はその基盤を表出する場であること」「そのために過去問題の内容は3年生終了までに理解し、4年ではその内容を学校の具体的場面に結び付けて考えられること」等である。

○自己分析では、自分の「よい点」「悪い点」を核にしてA4用紙に書き出し、それをもとに相互自己紹介をする活動を行った。

○終末には、各自がリフレクションノートに本時の評価を書き込む時間を設定した（毎時）。

【第2～3、5～6時】時事小論①～④

○1コマ90分間の講座を以下の流れで進めた。

①事前に各自の小論を担当（佐瀬）まで提出させ、印刷しておき、講座の始めに配付する。

②4名程度のグループをつくり、グループ内メンバーの小論について、1人の論文に15～20分程度の時間を設定して「各自が読む→その小論についての意見交換をする」の流れで協議し合う。

③全体場で感想や質問等の時間を取り、それを受けた形で担当から全体コメント（本時の各小論について、協議について、+1のためのポイントについて）をする。

④各自がリフレクションノートに本時の評価を書き込む。

○小論の字数として、最初の2回は600字以内、以降は800字以内の指定をした。

○協議の観点として大きく「内容（主張や考えの明確さ、わかりやすさ等）」と「方法（論文構成の仕方や表現等）」の2つを示した。

○担当は協議中に各グループを机間指導して適宜コメントやアドバイスを加えた。

【第4時】自己分析②

○前時まで教育実習だった受講生が合流し、16名全員で改めてスタートした。第1時に行った内容と同様のガイダンスを行った後、ゲーム方式で自己理解・自己開示・相互理解・自己分析を進めるプログラムを行った。

【第7～10時】教育小論①～④

○1コマ90分間の講座を以下の流れで進めた。

①前時に論文のテーマを伝え、講座の前日までに担当（佐瀬）まで提出させ、印刷しておき、講座の始めに配付する。

②～④は時事小論と同様の流れで行う。

○小論の字数として、800字以内の指定をした。また、協議の観点や、協議中の担当のかかわりについては、時事小論と同様に行った。

○論文のテーマとして以下のものを示した。

- ・教育小論①「生きる力の育成」
- ・教育小論②「学力の向上」
- ・教育小論③「いじめの防止」
- ・教育小論④「特別支援教育の推進」

(3) 第2クール（4年生4～7月プログラム）

ア．講座の概要

1) 講座テーマ及び内容

教育関係の諸問題の考察と自己分析・理解・表現

～教育と自己を見つめ、考え、発する～

・教育関係の諸問題や要点についての小論文、協議。

・「自己アピール」「個人や集団での面接・協議」等を通して、自己や他者を理解する力やコミュニケーション力を高める。 等

2) 講座開設の理由

本講座は、教師として学校生活を送る中で必要な実践的課題について、受講者自身が自らの頭・体・心を通して体験的に学び、教師としての実践力を自分のものとして獲得することをねらって開設するものである。

今年の7～8月には、教員採用試験がある。教員採用試験は、その人が教員としての基本的資質を有しているかどうかをはかるものであるから、当然、本講座で扱う内容の中にも教員採用試験と直結する事柄が多くある。その意味で、教員使用試験に向けた学習の一環として本講座を位置付けることもできる。

しかし本講座では、教員採用試験は教員としての歩みの途中にある1ステップと考えている。したがって、教員採用試験は目的点ではなく通過点である、ということである。

教師としての実践力を身に付けたいと考えている人が集まってともに学ぶことにより、互いの実践的教師力の獲得・向上を図る。そんな考え方で、本講座を展開していく。

本クールは、受講生の「教育への眼と心を養う」「思考力・表現力を高める」「他とのかかわりの中で学び合い高め合う」ことをねらいにして構成したものである。

一人一人が教育に関する現状や諸課題に目を向け、様々な出来事に気づき、見つめ、考え、表現する資質・能力を高めるとともに、さらに受講生同士で協議し意見交換をすることを通して、個々の見方考え方をより多面的・多角的なものにし、さらにプラスの人間関係づくりに主体的に向かう態度を培うものと考えている。

3) 実施期間及びコマ等

○実施期間 平成26年4月～26年7月

○実施コマ 金曜日2限（計11コマ）

4) 募集対象

○小・中学校の教員を志望する学部4年生。（及び院2年生）

○いい加減な気持ちではなく、全講座を通して主体的に参加する強い意志を持つ者（やむを得ない理由のある場合は欠席を認めるので必ず申し出る）。

○講座参加について指導教員の承諾を得られた者。

5) 募集人数及び手順

○募集人数・・・最大20名（先着順）

○募集手順

- ・今回は、平成25年度後期に行っていた第1クールの参加者（10名）を第一に、そしてポスターを学部内に貼って第二次の募集をした。

6) 講座内容

①自己分析・理解・表現

自己アピールシートや協議、演習を通して、各々が自分を見つめ、分析し、表現する活動により、自己理解を深めるとともに、共感的相互理解力やコミュニケーション力を高める。

②集団協議

教育の重点課題や学校における問題場面等のテーマについて、数名のグループによる協議を行う。1グループが協議する時に他グループは参観する。協議への参加及び参観、集団協議後の意見交換を通して、教育課題への理解を深め、相互の社会性やコミュニケーション力・自己及び他者理解力等を高める。

③集団面接

数名のグループによる集団面接を行う。1グループが面接を行う時に他グループは参観し、面接後に協議を行う。面接及び参観、集団協議後の意見交換を通して、自己表現力やコミュニケーション力・自己及び他者理解力等を高める。

④小論文（教育小論）

教育の重点事項や課題の中から毎回テーマを設定し、それに対する思いや考えを文章にまとめ、受講生同士で協議する活動を通して、教育への目や意識を養う。

7) 担当（講師） 佐瀬 一生（本学部教員／教員養成開発センター）

イ. 講座の実際

1) 参加者 10名

○第一次・二次募集の結果、第1クール（平成25年度実施）の参加者10名が応募し、第二次募集からは応募者はいなかった。なお、10名とも、担当教員（佐瀬）の研究室に所属している学生である。

2) 講座スケジュールと内容

時	月日	内 容	時	月日	内 容
1	4/18	ガイダンス、自己分析①	7	5/30	集団面接②
2	4/25	集団協議①	8	6/6	小論文②
3	5/ 2	集団面接①	9	6/13	集団協議③・集団面接③
4	5/9	小論文①	10	6/20	長研生の先生方との協議
5	5/16	自己分析②	11	7/11	自己分析③・自己表現
6	5/23	集団協議②			

3) 講座の具体的内容及び状況

【第1時】ガイダンス、自己分析①

○ガイダンスでは、本講座のねらいと内容を説明した後、教員採用試験まで

の心構えや取組の仕方についてレクチャーをした。具体的には、「これまで過去問題への取組で掴んだ教育重点や課題を整理（ファイルノートづくり）し、学校の具体的場面に結び付けて考えること」「自分はそれらをどう教育実践するかをイメージしシンキングマップ等」に書き出して整理すること」等である。

- 自己分析では、A4の自己アピールシートに自己アピールを自由に書き表し、それを印刷・配付して見合い、5名程度ずつのグループで意見交換する活動を行った。書く時間として20分を与え、その中でいかに自分を表出し、読み手に伝えるかをポイントにした。
- 終末には、各自がリフレクションノートに本時の評価を書き込む時間を設定した（以降、毎時）。リフレクションノートの内容は第1クールと同じである。
- 自己アピールシートは本時終了時に各人に複数枚配付し、適宜何度も書き出して練習することで自己理解・自己表現を進めるよう話した。

【第2・6時】集団協議①・②

- 1コマ90分間の講座を以下の流れで進めた。
 - ①5名程度ずつのグループ編成をし、集団協議を行うグループの順番を決める。
 - ②最初のグループについて、教育現場での課題に関するテーマを与え、15～20分ずつ集団協議を行う。他のグループは参観する。
 - ③集団協議後に参観グループから意見を述べるとともに、協議グループから感想等を発表する。
 - ④以上を1サイクルとして、集団協議と参観の役割を交代し、全グループが協議と参観の両方を体験するようにする。
 - ⑤一通り集団協議・意見交換を終えた後、担当からコメントやアドバイスをを行う。
 - ⑥各自がリフレクションノートに本時の評価を書き込む。

【第3・7時】集団面接①・②

- 1コマ90分間の講座を以下の流れで進めた。
 - ①数名ずつのグループ編成をし、集団面接を行うグループの順番を決める。面接官の役割は担当が行う。
 - ②以降は、集団協議と同様の流れで行う。

【第4・8時】小論文①・②

- 第1クールの教育小論と同じ流れで行った。
- 論文のテーマとして以下のものを示した。
 - ・教育小論①「道德教育の充実」
 - ・教育小論②「家庭や地域との連携・協働の推進」

【第5時】自己分析②

- 自己分析①と同様の流れで行った。ただし、意見交換の後に、各人が口頭で数分ずつ自己アピールを行う時間を入れた。

【第9時】 集団協議③・集団面接③

○これまでの集団協議・集団面接の流れと同様にして、両方のプログラムを90分の中で行った。

【第10時】 長研生の先生方との協議

○千葉大学で学んでいる長期研修生（現職教員）2名に参加してもらい、以下の流れで行った。

- ①受講生からの質問に長研究生が答える「Q&A」
- ②長研究生から受講生へのアドバイス（教員採用試験について、教職に向けた学びについて、等）
- ③担当からのコメント・アドバイス
- ④各自のリフレクションノートへの書き込み

【第11時】 自己分析③・自己表現

○1コマ90分間の講座を以下の流れで進めた。

- ①自己アピールシートへの書き出し
- ②各人の口頭での数分ずつの自己アピール
- ③相互意見交換
- ④フラッシュカード方式（担当が質問して問われた受講生が即答する、というサイクルを次々に行う）によるQ&A
- ⑤担当からの教員採用試験に関するアドバイス
- ⑥各自のリフレクションノートへの書き込み

（4）第3クール（4年生7・8月プログラム）

ア．講座の概要

1) 講座テーマ

○教員採用2次セミナー

（2次選考に関係する内容を中心とした実技・実習的講座）

・千葉県・千葉市の小学校教員2次選考（昨年度）の内容を中心に、実践的に学ぶことを通して、教師としての基礎的基本的な意識や感性、能力を養う。

2) 講座開設の理由

本講座は、「教員採用選考を突破するためのノウハウ獲得」が目的ではない。「教員としての資質・力量を身に付け、伸ばす取組の一過程に、教員採用選考がある」という考えのもとで行っている講座である。

「合格のためのHow toを教えて」という方は、講座の受講をお断りする。

教師としての実践力を獲得・向上を目指した講座を、毎年実施しているところであるが、今回も、3年生10月から卒業までを大きな流れとして位置付けて、昨年度後期から細々と実施してきた。

教員採用選考が間近に迫ってきて、筆記試験やら面接やら、不安の声を多く聞

く。その中で、「2次選考の内容に関する講座を実施してほしい」という要望を各所から強く聞いたので、下記の内容に特化して、講座を行うことにした。

以下の要領をよく読んだ上で参加を強く希望する方がいるようであれば、と、オープン募集をすることにした。

3) 実施スケジュール及び内容

回	月日	曜		時 間	内 容
1	7/16	水	A：個人面接	9:00～10:30 ①	10:30～12:00 ②
2	7/18	金	(面接実習・協議)	9:00～10:30 ③	10:30～12:00 ④
3	7/23	水	B：マット運動	9:00～11:30 ①	
4	7/24	木	・集団行動	9:00～11:30 ②	
5	8/ 7	木	C：模擬授業・場面指導	9:00～10:30 ①	10:30～12:00 ②
6	8/ 8	金	(実習・協議)	9:00～10:30 ③	10:30～12:00 ④

○AとCについては、それぞれ①～④の4つのコマを設定し、同内容のプログラムにより、少人数で実施。

○Bについては、①・②の2つのコマを設定し、同内容のプログラムにより実施。

4) 募集対象

○以下の条件を満たす学生。

- ・本年度、教員採用選考（小・中学校）を受けている。
- ・上記の講座（3種類）のうち、自分の2次選考に係る一通りの内容について参加できる。（人数枠が埋まってしまった場合は一部）
 (例) 千葉県・千葉市小学校の場合は、「A：個人面接」「B：マット運動・集団行動」「C：模擬授業」の3種類になる。A～Cの3つの内容それぞれについて、どこかのコマで参加ができる者、ということになる）
- ・いい加減な気持ちではなく、全講座を通して主体的に参加する強い意志を持つ者（やむを得ない理由のある場合は欠席を認めるので必ず申し出る）。
 「都合いい時間だけちょっと出て」「コツを教えてもらって」程度に軽く考えている方は、くれぐれも受講をしないよう求める（担当者がそう判断した方には、途中でも、以降の受講をやめていただく）。
- ・講座参加について指導教員の承諾を得られた者。

5) 募集人数及び方法

○A・Cについては、①～④の各コマ6名以内（計24名ずつ）。

○Bについては、①・②の各コマ16名以内（計32名）。

○各回とも、申込受付の先着順。

- ・6/30（月）までに、担当（佐瀬）まで連絡（メール・電話）をする。
- ・日時を調整の上、一度直接話し、参加日・コマなど、内容確認できた者から「申込」とする。（先着順で、人数枠達成時点で打ち切る）

6) 担当（講師） 佐瀬 一生（本学部教員／教員養成開発センター）

イ．講座の実際

1) 参加者及び講座スケジュール

○参加者

A：個人面接（36名）

- ・ 7 / 16 … 1限 / 6名、2限 / 6名
- ・ 7 / 18 … 1限 / 6名、2限 / 6名
- ・ 7 / 23 … 3限 / 6名、4限 / 6名

B：マット運動・集団行動（42名）

- ・ 7 / 23（1・2限）… 21名
- ・ 7 / 24（1・2限）… 21名

C：模擬授業・場面指導（36名）

- ・ 8 / 7 … 1限 / 6名、2限 / 6名、3限 / 6名、4限 / 6名
- ・ 8 / 8 … 1限 / 6名、2限 / 6名

○募集開始後、応募が次々にあつて数日のうちにA～Cとも人数が埋まってしまった。その後もリクエストが続いたため、急遽、A・Cの追加のコマを設定したが、それもすぐに埋まった。また、Bは1コマの人数をぎりぎりまで増やして対応した。その締め切り後も、A～Cそれぞれについて多くの受講希望申込みがあつたが、スケジュールの都合でこれ以上の設定ができなかったため、全て断った。

2) 講座の具体的内容及び状況

【A：個人面接】

○1コマ6名で、1人1回ずつ10分程度の個人面接を行い、互いに見合えるように下表のようにローテーションを組んだ（A～Fの順に面接を行った）。面接官の役割は担当が行った。

	A	B	C	D	E	F
①	面接	外待機	外待機	面接官席	脇席参観	入室係
②	入室係	面接	外待機	外待機	面接官席	脇席参観
③	脇席参観	入室係	面接	外待機	外待機	面接官席
④	面接官席	脇席参観	入室係	面接	外待機	外待機
⑤	脇席参観	面接官席	脇席参観	入室係	面接	外待機
⑥	脇席参観	脇席参観	面接官席	脇席参観	入室係	面接

○全員にそれぞれ人数分のA4用紙を配付して、参観の時には、面接者1人に1枚、批評箋として気が付いたことを書き込むようにさせた。そして全員の面接が終わった段階で、批評箋を互いに渡し合い、意見交換をさせた。意見交換の後、担当からコメント・アドバイスをした。終末には、各自リフレクションノートへの書き込みを行った。

【B：マット運動・集団行動】

○附属小学校の体育館を借用し、集団行動→マット運動の順で、各90分プログラムで行った。

○集団行動は以下の流れで行った。半数ずつの2グループ編成をし、①～③それぞれについて担当が指示役をして集団行動を行った後、各グループ内で練習し合うよう構成した。③の終了後に担当からコメント・アドバイスをを行った。終末には、各自リフレクションノートへの書き込みを行った。

- ①集合、整列、隊列変更
- ②行進、移動
- ③体操（準備体操、ラジオ体操）

○マット運動は以下の流れで行った。担当が指示役をしてプログラムを進めた。④の終了後に担当からコメント・アドバイスをを行った。終末には、各自リフレクションノートへの書き込みを行った。

- ①マット運動の場の設定（ロングマット×2枚を1セットにし、2セットを用意）
- ②柔軟運動、準備運動、マット遊び
- ③マット運動の基本技（前転、後転、開脚前転、開脚後転、伸膝後転、倒立、倒立前転、腕支持側方回転、等）
- ④マット運動の連続技（行き／倒立前転→前転→開脚前転→前転足交差180°回転→伸膝後転、戻り／助走から腕支持側方回転）

【C：模擬授業・場面指導】

- 1コマ6名で、1人1回ずつ、10分の持ち時間で模擬授業もしくは場面指導（各人の希望でどちらか）を行い、互いに見合えるようにした。
- 全員にそれぞれ人数分のA4用紙を配付して、参観の時には、批評箋として気が付いたことを書き込むようにさせた。そして全員の模擬授業・場面指導が終わった段階で、批評箋を互いに渡し合い、意見交換をさせた。意見交換の後、担当からコメント・アドバイスをした。終末には、各自リフレクションノートへの書き込みを行った。

（5）第4クール（4年生後期プログラム）

ア．講座の概要

1) 本講座のねらい

- 4年生後期において、次年度からの教職生活スタートでの「即戦力」としての力の発揮にスムーズにつなげるための「実践的教師力」を育成する。
- 「これからの教員に求められる資質能力」(H24 中教審)のうち、特に(i)(iii)の視点を重視しつつ、(ii)の実践的指導力も育成する。

- (i)教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）
- (ii)専門職としての高度な知識・技能
 - ・ 教科や教職に関する高度な専門的知識（グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む）

- ・ 新たな学びを展開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力）
 - ・ 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力
- (iii)総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

2) 実施時期及び実施日

○実施時期

平成26年11月7日（金）～平成27年2月6日（金）の10日間

（1日に2コマを実施し、計20コマ）

3) 対象者

○教員採用選考に合格し、来年度からの教員採用が予定されている学部4年生（＋院2年生）。及び、不合格となったが、講師登録を予定し、意欲を持って参加できる者。

○小・中学校の教員を希望している者。千葉県小学校及び中・高等学校を受験している者を優先とするが、他都道府県等の受験者も認める。

○いい加減な気持ちではなく、全講座を通して主体的に参加する強い意志を持つ者（やむを得ない理由のある場合は欠席を認めるので必ず申し出る）。

○講座参加について指導教員の承諾を得られた者。

4) 募集人数及び時期

○募集人数・・・50名（先着順）

○募集時期・・・平成26年10月10日（金）～24日（金）

5) 主な内容と方法

○学級づくり、授業づくり、人間関係づくり、他者との連携・協働等、教員の仕事を遂行する上で重要な内容について、演習や実技、協議などを通して具体的・実践的に学び、理解を深め、指導力を高める。

6) 講師

○本学部教員（佐瀬一生、土田雄一、他）等

7) カリキュラム

時	月日	限	テーマ・活動内容	担当
1	11/7	1	ガイダンス／初対面の人間関係づくり	佐瀬
2		2	教員の仕事の理解～その範囲と内容	佐瀬
3	11/14	3	接遇の基本の理解	佐瀬
4		4	社会人の「マナー」実践	佐瀬
5	11/21	1	構成的グループエンカウンターのかえ方と実際	土田
6		2	人間関係づくりの具体的ワーク	土田
7	11/28	1	授業経営における子ども理解	佐瀬
8		2	「授業場面」での子ども指導のワーク	佐瀬

9	12/5	1	学級経営における子ども理解	高宮
10		2	「学級の日」での子ども指導のワーク	高宮
11	12/12	1	生徒指導と教育相談の理解と実践	滝本
12		2	カウンセリング入門のワーク	滝本
13	12/19	1	保護者・地域との連携・協働～保護者からの願い (保護者によるレクチャー)	佐瀬
14		2	保護者とのかかわり～具体的場面のワーク	佐瀬
15	1/23	1	学校事故の予防・想定・対処～AEDを中心としたBLS	下永田
16		2	学校安全と危機管理の理解と具体的場面のワーク	佐瀬
17	1/30	1	4月スタート期の業務と対応	佐瀬
18		2	事務の実際～学級経営案をつくってみよう	佐瀬
19	2/6	1	初任1年間の動きと教員の資質能力(県教育行政職員 によるレクチャー)	佐瀬
20		2	教職の課題と解決～グループワーク(GW)及び発表 による共有／本講座の振り返り・まとめ	佐瀬

8) 受講の手続き

- ①学生支援係に置いてあるこの用紙を受け取る。
- ②10/24(金)までに、担当(佐瀬)まで連絡(メール・電話)する。日時を調整の上、一度直接担当と話し、内容等確認の上、受講申込書を受け取る。
(先着順で人数枠達成の時点で以降打ち切る)
- ③所定の事項を記入した上で、指導教員からサイン・押印をもらう。
- ④受講申込書を担当(佐瀬)まで提出する。

9) 応募にあたっての留意点

- 受講態度の悪い者は途中でも以降の受講を断る場合がある。
- 受講の出欠状況は指導教員に報告する。
- 本講座の実施に伴い、昨年度まで行っていた「教員採用直前講座」は、本年度は実施しない。

イ. 講座の実際

1) 参加者 36名

2) 講座の具体的内容及び状況

○各時の冒頭には、その時間の内容についてのガイダンスを行い、グループ活動の場合はグループ編成を行った。また、終末にはまとめとして、「感想・気づき・考えの発表」「担当からのコメント・アドバイス」「リフレクションノートの記述」を行った。以下、各時テーマにかかわる部分を述べる。

【第1時】ガイダンス／初対面の人間関係づくり

①初対面の「第一声」

- ・「第一声」の意味を考えさせ、協議した後、実際に声出しをし合った。

②グルーピングと初対面の人間関係づくり

- ・ 6人程度のグループ編成をゲームで行い、初対面の自己紹介から相互コミュニケーションを進める人間関係づくりワークを進めた。内容は「半年後に教師になる段階である現在、抱えている不安や課題を具体的に書き出し、グループで共有するプログラム」である。

③学校現場での「初対面の場」

- ・ 年度初めの「着任日の職員への挨拶」「着任式での前項への挨拶」「学級開きでの子どもたちとの挨拶」「4月の学級保護者会での保護者への挨拶」をグループ内で分担して実際に交代でスピーチした。その後、ゲームで選抜した受講生代表に全体場でスピーチした。

④職員と、子どもと、保護者との「初対面の人間関係」

- ・ 初対面の人間関係の重要性を協議し、全体発表し合って共有した。

【第2時】教員の仕事の理解～その範囲と内容

①教師の仕事～校務の理解

- ・ 担当から「校務の推進」についてレクチャーした上で、グループごとに教師の仕事を挙げて整理する活動を行い、「校務」を大まかに捉えた。

②校務分掌の範囲

- ・ 実際の学校での校務分掌表から校務の範囲や内容を具体的に整理した。

③校務分掌の構想イメージング

- ・ 各グループで1つの校務を取り上げて、その校務を1年間どのように行うか、グループ協議を通して考えた。

【第3時】社会人の「マナー」実践／接遇の基本の理解

1) 社会人の「マナー」実践

①社会人として大切なこと

- ・ 学生と社会人の社会性の違い、教師として必要な社会人性について、グループで協議した上で全体協議をした。

②様々な場面での「マナー」

- ・ 学校や地域社会、生活での様々な場面を設定し、その中でのマナー実践や望ましい行動について、演習を通して体験した。

2) 接遇の理解と実践

①「接遇」とは？

- ・ 学校や社会における接遇の重要性やその考え方について、担当からのレクチャーやフラッシュカード方式演習を通して考えた。

②様々な場面での「接遇」・・・演習

- ・ 学校や地域社会、生活での様々な場面（例えば電話・対面・訪問時等の場、保護者・地域住民等の相手、様々な用件）を設定し、その中で望ましい接遇の実践について、演習を通して体験した。

【第4時】学校現場における「どうしたらいいの？」への対応

①学校現場における問題場面

- ・ 学校での様々な具体的問題場面を全体で考え、出し合い、学校現場における「問題」を整理した。

②いくつかの具体的問題場面の考察

- ・例えば「けんかの発生」「いじめの対応」「万引き行為の指導」等、いくつかの場面をグループごとに設定し、その対応についてグループ協議の上、全体場で発表し合って共有した。

【第5時】構成的グループエンカウターの考え方と実際

- 道徳教育・人間関係づくり等を専門領域に持つ本学部特任教授（昨年度まで小学校校長）が本時・次時を担当した。
- 学校生活におけるプラスの人間関係づくりの重要性を具体的場面での考察を通して考え、構成的グループエンカウターによる人間関係づくりエクササイズを実際に行い、体験した。

【第6時】人間関係づくりの具体的ワーク

- トランプや100円グッズ等の物品を使ったゲームや、集団レクゲームを通して、人間関係づくりの具体的ワークを体験した。

【第7時】授業経営における子ども理解

1)「授業経営」の考え方と実際

①「授業運営」と「授業経営」

- ・両者の違いを掴み、授業経営の考え方による授業のPDCAについて担当のレクチャーから考えた。

②授業で育てるもの

- ・授業を通して子どもの人格・「生きる力」（知識・理解という狭い捉えでなく、授業を通して様々な能力や意欲、基本的生活習慣や社会性・道徳性等も含めた幅広い捉え）を育成することについて、いくつかの具体的事例を通して考えた。

2) 1つの授業を通して「授業経営」をつかむ

①DVD視聴

- ・DVD教材「授業力の見える化」を用いて、授業中での教師の手立てや授業のポイントについて、DVDの授業を「見取る」（見てメモする）活動、個々のメモをグループ内でシェアする活動、DVDの授業（解説テロップあり）を見て確かめ考える活動を行った。

②DVDから何をつかんだか～GW

- ・DVDから得たものをグループ内、そして全体で話し合い共有した。

【第8時】「授業場面」での子ども指導のワーク

- いくつかの授業場面を取り上げて、そこで実際にどのような指導を行うか、グループ内で協議し演習した上で、全体場で共有した。例えば小学校1年生国語の読み指導や、小学校6年生社会の歴史教材の扱い等である。

【第9時】学級経営における子ども理解

- 昨年度まで中学校校長をして定年退職した本学部非常勤講師が本時・次時を担当した。
- 「学級経営」の内容や、子ども理解の重要性について、担当からのレクチャーやQ&Aを通して考えた後、いくつかの具体的場面について演習・協

議を行った。

【第10時】「学級の一日」での子ども指導のワーク

○朝から夕方までの「学級の一日」における具体的場面を取り上げながら、それぞれの場面での子ども指導のあり方や方法について、ケーススタディやロールプレイ等の演習を行い、具体的に考えた。例えば、朝の会・清掃・給食・休み時間・放課後等において、子どもの具体的な行動に対する指導を考えた。

【第11時】生徒指導と教育相談の理解と実践

○中学校校長・県子どもと親のサポートセンター所長を歴任した本学部客員教授が本時・次時を担当した。
○生徒指導や教育相談の意義や内容について担当からのレクチャーやQ&Aを通して考えた後、いくつかの具体的場面について演習・協議を行った。

【第12時】カウンセリング入門のワーク

○子どもや保護者からの相談への対応について、ケーススタディやロールプレイ等の演習を通して、カウンセリング技法の重要性を具体的に考えた。例えば、部活動と勉強の両立の悩み・対人関係の悩み・保護者からの心配事等に対する、いくつか異なる対応の仕方を演習することにより、その後の状況や人間関係が大きく変わること等である。

【第13時】保護者・地域との連携・協働～保護者からの願い

○小学生と幼稚園児の子どもを持つ保護者からお話をいただいた。そのレクチャーやQ&Aを通して、保護者の願いや学校・教師への思い等について考えた。

【第14時】保護者とのかかわり～具体的場面のワーク

○保護者とのかかわりに関するいくつかの問題場面を設定して、その対応の演習を行った。具体的には「生活習慣が悪い子どもと保護者への対応」「クレームで来校する保護者への対応」について、どうしたらよいかを考え、「こうしたらよい」を端的に述べ、そのためのポイントを2～3点挙げる形でグループ協議した。また、電話での保護者からのクレーム対応等、実際場面の演習を行った。

【第15時】学校事故の予防・想定・対処～AEDを中心としたBLS

○スポーツバイオメカニクス・体力トレーニング論・体育課教育学を専門領域とする本学部准教授が本時を担当した。
○AED（自動体外式除細動器／Automated External Defibrillator）を実際に操作してのBLS（一次救命処置／Basic Life Support）演習を行った。また、BLSの要点のレクチャーを受けた。

【第16時】学校安全と危機管理の理解と具体的場面のワーク

○学校教育を「学校安全と危機管理」の観点から考えた。学校安全・危機管理にはどのような場面・内容があるか、その対応はどうするか等、グループワークや協議を通して具体的に考え、整理した。

【第17時】4月スタート期の業務と対応

○「4月スタート期」の業務にはどのようなものがあるか、グループワークを通して整理した上で、4月スタート期の様々な業務にどう対応するかを行事予定表や倒叙的スケジュール管理法を活用したグループワークや協議により共有した。

【第18時】事務の実際～学級経営案をつくってみよう

○学校における校務の中の「(いわゆる)事務仕事」の位置付けや内容について担当のレクチャーやQ&Aを通して確認した。その上で、実際の書類作成演習として学級経営案を取り上げ、グループワークで作成し、全体発表により共有した。

【第19時】初任1年間の動きと教員の資質能力

○千葉県総合教育センター研究指導主事からお話をいただいた。

○学校の1年間の流れと初任者教員としての対応について、レクチャーやQ&Aを通して考え、話し合っ共有した。

【第20時】教職の課題と解決及び発表による共有／本講座の振り返り・まとめ

1) 教職の課題と解決

○第1時に行った「現在抱えている不安や課題」で作成した模造紙資料を確認し、本講座を受講した2月の現段階でどう変容したかをグループ協議を通して書き込みながら共有した。

2) 本講座の振り返りとまとめ

○スタートから今までの学びと変容、現段階の自分の課題の見つめ直しと今後への意識を発表し合い、全体で共有した。

(6) 評価及び考察

ア. 評価の方法と内容

本講座の評価については、毎時の終末時に各受講生がリフレクションノートに5段階スケールチェック及び自由記述で記述することで行った(図2・3)。

スケールチェックは、自己評価として「学習内容への関心」「理解の深化」「自己の向上」の3観点、授業評価として「内容の適切性」「活動の充実」という、計5観点の観点別評価である(図2)。

回/月日	学んだこと・考えたこと・感想・質問・意見など	評 価	5	4	3	2	1	教員check
11月7日 1-①		学習内容への関心						
		理解の深化						
		自己の向上						
		内容の適切性						
11月7日 1-②		活動の充実						
		学習内容への関心						
		理解の深化						
		自己の向上						
		内容の適切性						
		活動の充実						

【図2】毎時の5段階スケールチェック項目(部分)

5								
4								
3								
2								
1								
理由一言コメント								
	11月7日	11月7日	11月14日	11月14日				
	1-①	1-②	2-①	2-②				

【図3】総合評価のスケールチェックと理由一言コメント（部分）

また、裏面には別途、総合評価も5段階スケールでチェックし、毎時を並べることで、その状況の変化が折れ線グラフで表されるようにした。そして、その理由を一言コメントで書くようにさせた（図3）。

このリフレクションノートはその日の講座終了時に担当に提出し、担当がチェックし、一言コメントを入れて次の回に配付する、という「交換日記方式」で活用した。

第1～4クールとも、このリフレクションノートを共通して使用することで、評価の観点や基準を同一にした。

加えて、第4クール終了後に、第1クールから通して本講座に参加してきた受講生（第1クールは昨年度実施のもの。内容は本年度と同様）のうち何人かに、集団インタビュー形式で聞き取り調査を行い、本講座に対する評価をしてもらった。

イ. リフレクションノートでの評価から

1) 第1クール

5観点別評価並びに総合評価の5段階スケールチェックの結果は図4～9の通りである。

	時	5	4	3	2	1	AVE.
内容への関心	第1時	5					5
	第2時	5					5
	第3時	5	1				4.83
	第4時	15					5
	第5時	11					5
	第6時	13	1				4.93
	第7時	10					5
	第8時	13					5
	第9時	13					5
	第10時	13					5
	計	103	2				4.98

【図4】「内容への関心」の評価集計結果

	時	5	4	3	2	1	AVE.
理解の深化	第1時	3	2				4.6
	第2時	4	1				4.8
	第3時	3	3				4.5
	第4時	10	5				4.67
	第5時	9	2				4.82
	第6時	11	3				4.79
	第7時	7	3				4.7
	第8時	11	2				4.85
	第9時	12	1				4.92
	第10時	12	1				4.92
	計	82	23				4.78

【図5】「理解の深化」の評価集計結果

	時	5	4	3	2	1	AVE.
自己の向上	第1時	1	4				4.2
	第2時	4	1				4.8
	第3時	4	2				4.67
	第4時	11	3	1			4.67
	第5時	9	2				4.82
	第6時	9	4	1			4.57
	第7時	7	3				4.7
	第8時	11	2				4.85
	第9時	11	2				4.85
	第10時	12	1				4.92
	計	79	24	2			4.73

【図6】「自己の向上」の評価集計結果

	時	5	4	3	2	1	AVE.
内容の適切性	第1時	4	1				4.8
	第2時	5					5
	第3時	5		1			4.67
	第4時	12	3				4.8
	第5時	10	1				4.91
	第6時	11	3				4.79
	第7時	8	2				4.8
	第8時	11	2				4.85
	第9時	12	1				4.92
	第10時	11	2				4.85
	計	89	15	1			4.84

【図7】「内容の適切性」の評価集計結果

	時	5	4	3	2	1	AVE.
活動の充実	第1時	5					5
	第2時	5					5
	第3時	5	1				4.8
	第4時	11	4				4.73
	第5時	11					5
	第6時	14					5
	第7時	10					5
	第8時	11	2				4.85
	第9時	12	1				4.92
	第10時	13					5
	計	97	8				4.93

【図8】「活動の充実」の評価集計結果

	時	5	4	3	2	1	AVE.
総合評価	第1時	3	1	1			4.4
	第2時	3	2				4.6
	第3時	3	3				4.5
	第4時	11	3	1			4.67
	第5時	9	1	1			4.73
	第6時	10	2	2			4.57
	第7時	7	2	1			4.6
	第8時	10	2	1			4.69
	第9時	10	1	2			4.62
	第10時	12	1				4.92
	計	78	18	9			4.66

【図9】「総合評価」の評価集計結果

10時間の全体を通してみると、5観点別評価について、最低でも4.7以上という、非常に高い評価を得た。「自己の向上」の第1時が4.2であるが、これは「自己分析をして表出する（書き出す、話す）」という活動を初めて行う中で、自分自身を見つめ、引き出すことがまだ十分に満足できるところまではいかない、という心情の表れであることが、自由記述から伺える。

総合評価の数値が5観点別評価と比べて各時・全体ともわずかだが低い傾向がある。これは、総合評価を書き入れる場所が別の場所（リフレクションノートの裏面）であることから、基準が多少ずれたものであると思われる。

2) 第2クール

5観点別評価並びに総合評価の5段階スケールチェックの結果は以下の通りである。最終時に「これまでの講座（第2クール）を振り返って」として、各時間ではなく全体について評価してもらった。図10は、その

評価観点	5	4	3	2	1	AVE.
内容への関心	10					5
理解の深化	8	2				4.8
自己の向上	7	3				4.7
内容の適切性	10					5
活動の充実	8	2				4.8
総合評価	8	2				4.8

【図10】第2クール全体についての集計結果

集計結果である。評価人数が少ないが、各評価観点並びに総合評価のどれも、高い評価を得ている。

毎時の評価については、時間の終末にフリートークで振り返り共有することで済ませた。11時間のプログラムを、自己分析・集団協議・集団面接・小論文（教育小論）のサイクルを繰り返す形式で実施したが、どの時間のフリートークでも、受講生が「教育関係の諸問題の考察と自己分析・理解・表現～教育と自己を見つめ、考え、発する」という講座テーマに積極的・主体的に迫っていることが伺えた。

本クルールの受講生は、相談し合って講座外の時間に互いの都合を合わせ、集団協議や集団面接等の練習を重ねるようになった。そのことが、講座への更なる積極性につながり、チームによる高め合いの姿として認めることができた。

3) 第3クルール

5観点別評価並びに総合評価の5段階スケールチェックの結果は図11～13の通りである。

3つの内容どれも、5つ観点別評価並びに総合評価とも、非常に高い評価である。その中で「自己の向上」が他の観点に比べて少し低い数値になっているのは、これらを体験して自分自身の現状に気付いたことで、自由記述で「自分がまだまだだということがわかった」「自分の課題がはっきりした」という記述が多く見られたことから、この時間での自身の高まりとともに、自身の課題が明らかになったことの表れと考えられる。

本クルールの受講生も、本講座での学びをもとにして、本クルール受講生が中心となってそれぞれ友人を誘い、自主的な練習会・勉強会を実施した。個人面接や模擬

授業・場面指導については夏季休業中の空き教室で、集団行動については外で大きな声で練習し合っている姿がよく見られた。しかしマット運動は、体育館が部活動使用のために場所確保が難しかったとのことで練習場所が取れなかったという声を多く聞いた。今後、学部側で練習場所確保等のサポートが重要であると考えられる。

時	評価観点	5	4	3	2	1	AVE.
個人面接	内容への関心	30	5	1			4.81
	理解の深化	27	8	1			4.72
	自己の向上	23	12	1			4.61
	内容の適切性	33	2	1			4.89
	活動の充実	35	1				4.97
	総合評価	34	2				4.94

【図 11】「個人面接」の評価集計結果

時	評価観点	5	4	3	2	1	AVE.
マット・集団	内容への関心	37	2				4.95
	理解の深化	32	7				4.82
	自己の向上	22	16	1			4.54
	内容の適切性	38	1				4.97
	活動の充実	37	2				4.95
	総合評価	37	2				4.95

【図 12】「マット運動・集団行動」の評価集計結果

時	評価観点	5	4	3	2	1	AVE.
模擬授業	内容への関心	34	2				4.94
	理解の深化	30	6				4.83
	自己の向上	25	11				4.69
	内容の適切性	34	2				4.94
	活動の充実	31	5				4.86
	総合評価	32	4				4.89

【図 13】「模擬授業・場面指導」の評価集計結果

4) 第4クール

5 観点別評価並びに総合評価の5段階スケールチェックの結果は図14～16の通りである。

時	評価観点	5	4	3	2	1	AVE.
1	内容への関心	34	4				4.89
	理解の深化	22	16				4.58
	自己の向上	21	16	1			4.53
	内容の適切性	35	3				4.92
	活動の充実	33	5				4.87
2	内容への関心	34	3				4.92
	理解の深化	27	10				4.73
	自己の向上	25	12				4.68
	内容の適切性	36	1				4.97
	活動の充実	29	8				4.78
3	内容への関心	31	1				4.97
	理解の深化	23	9				4.72
	自己の向上	18	14				4.56
	内容の適切性	31	1				4.97
	活動の充実	28	4				4.88
4	内容への関心	31	1				4.97
	理解の深化	22	10				4.69
	自己の向上	19	13				4.59
	内容の適切性	27	5				4.84
	活動の充実	23	8	1			4.69
5	内容への関心	29	2				4.94
	理解の深化	27	4				4.87
	自己の向上	25	6				4.81
	内容の適切性	30	1				4.97
	活動の充実	30	1				4.97
6	内容への関心	29					5
	理解の深化	27	2				4.93
	自己の向上	23	6				4.79
	内容の適切性	28	1				4.97
	活動の充実	28	1				4.97
7	内容への関心	37	1				4.97
	理解の深化	30	8				4.79
	自己の向上	17	20	1			4.42
	内容の適切性	33	5				4.87
	活動の充実	24	12	2			4.58
8	内容への関心	32	4				4.89
	理解の深化	30	6				4.83
	自己の向上	22	14				4.61
	内容の適切性	28	8				4.78
	活動の充実	25	11				4.69
9	内容への関心	20	5				4.8
	理解の深化	12	13				4.48
	自己の向上	11	13	1			4.4
	内容の適切性	21	4				4.84
	活動の充実	9	11	5			4.16
10	内容への関心	25					5
	理解の深化	17	8				4.68
	自己の向上	12	13				4.48
	内容の適切性	21	4				4.84
	活動の充実	19	6				4.76
時	評価観点	5	4	3	2	1	AVE.
11	内容への関心	30	5				4.86
	理解の深化	28	7				4.8
	自己の向上	23	12				4.66
	内容の適切性	34	1				4.97
	活動の充実	22	12	1			4.6
12	内容への関心	32	3				4.91
	理解の深化	29	6				4.83
	自己の向上	24	11				4.69
	内容の適切性	34	1				4.97
	活動の充実	25	10				4.71
13	内容への関心	29	3				4.91
	理解の深化	22	9	1			4.66
	自己の向上	24	7	1			4.72
	内容の適切性	29	2	1			4.88
	活動の充実	26	6				4.81
14	内容への関心	31	1				4.97
	理解の深化	28	4				4.88
	自己の向上	20	12				4.63
	内容の適切性	29	3				4.91
	活動の充実	26	6				4.81
15	内容への関心	31	1				4.97
	理解の深化	28	4				4.88
	自己の向上	31	1				4.97
	内容の適切性	32					5
	活動の充実	32					5
16	内容への関心	31	1				4.97
	理解の深化	28	4				4.88
	自己の向上	22	10				4.69
	内容の適切性	31	1				4.97
	活動の充実	26	6				4.81
17	内容への関心	31	3				4.91
	理解の深化	26	8				4.76
	自己の向上	23	10	1			4.65
	内容の適切性	31	3				4.91
	活動の充実	31	3				4.91
18	内容への関心	30	3				4.91
	理解の深化	26	6	1			4.76
	自己の向上	25	8				4.76
	内容の適切性	29	4				4.88
	活動の充実	26	6	1			4.76
19	内容への関心	27	1				4.96
	理解の深化	20	8				4.71
	自己の向上	20	7	1			4.68
	内容の適切性	24	4				4.86
	活動の充実	21	6	1			4.71

【図14】各時の観点別評価集計結果

本クールの最終時である第20時は、内容としてこれまでの振り返りであったため、長いスパンを通して様々な内容を扱った本クール全体について1つの数値評価で表しにくいと考えた。そこで、スケールチェックの記入を行わず、自由記述のみの評価をした。

5観点別評価並びに総合評価を見た時、総合評価の方が低い数値の傾向になるのは、第1クールと同じ理由であると考ええる。

「よい」より「とてもよい」の方が多い4.5を1つのカテゴリーラインとした場合、それより低い数値が、5観点別評価では第9時の「理解の深化（4.48）」「自己の向上（4.4）」「活動の充実（4.16）」と、第10時の「自己の向上（4.48）」である。

また、同様に総合評価では第1時（4.39）・第4時（4.47）・第8時（4.47）・第9時（4.28）である。

これらの時間について5観点別評価と総合評価を対応させて見ると、第1・4・8時については5観点別評価が全て4.5以上であるので、さほど問題ではないと考える。第9時については、指導教員のレクチャーが長引いて受講生が聞くのみの時間が長く、受講生自身が活動する場面が少なくなったことによるものと思われる。それは、「内容への関心」「内容の適切性」が非常に高いことからである。自由記述でも、同様の記述が多く見られた。

本クールについて総じて言うと、受講生にとって有効なものであったと評価することができよう。

	時	5	4	3	2	1	AVE.
総合評価	第1時	18	17	3			4.39
	第2時	23	14				4.62
	第3時	21	10	1			4.63
	第4時	15	17				4.47
	第5時	28	3				4.9
	第6時	28	1				4.97
	第7時	22	16				4.58
	第8時	18	14	2			4.47
	第9時	10	12	3			4.28
	第10時	15	10				4.6
	第11時	24	11				4.69
	第12時	21	14				4.6
	第13時	28	2	2			4.81
	第14時	24	8				4.75
	第15時	30	2				4.94
	第16時	25	7				4.78
	第17時	26	8				4.76
	第18時	20	12	1			4.58
	第19時	23	5				4.82
	計	419	183	12			4.66

【図15】各時の総合評価集計結果

評価観点	AVE.
内容への関心	4.93
理解の深化	4.76
自己の向上	4.65
内容の適切性	4.91
活動の充実	4.76

【図16】観点別評価の全体平均

ウ. 聞き取り調査から

1) 調査の概要

【実施日】平成27年2月6日（金／全講座終了日）17時～18時半

【方 法】半構造化インタビュー方式による集団インタビュー

【対象者】4名（全て女性。以降、A～Dで記載）

- ・本講座の第1～4クール全てに参加し、特に第4クールについて全参加した中から、日程の都合が合った受講生

A) K市正式採用（小学校）	B) C県正式採用（小学校）
C) C県年間講師登録（小学校）	D) C県正式採用（小学校）

2) 聞き取りの内容

①講座（第4クール）を終わって今、率直に思うことは？

A) 「いろいろあるけど、やるしかない！」と思っている。決してマイナスではなくて、プラスの決心。「大変」はわかっている。具体的に大変さがわかってきた。だから今はすっきりしている。

B) 現場のことを一番知れた。より、目の前のことを実際に知れたことが大きい。だから、具体的に未来が見えた。具体的に何をどうするかが見えてきた。いろいろな講師の先生から、いろいろな方向からの指導をいただいてよかった。とても新鮮だった。

C) 学校現場に一番近い講座だった。今まで受けてきた授業で、学校現場のどこにどう位置付くのか全然わからなかった授業も多くあった。その点、この講座は1つ1つがストンと腑に落ちて納得しながら考えられた。

グループでの活動が多く、しかもいつも固定していないので、いろいろな人たちとかかわってコミュニケーション力が高まったと思える。学校現場で生かしていけると思う。

D) 大学1・2年生のときの授業は、正直、学んではいたが身に付いていなかったと思う。この講座は即戦力を養って、4月からすぐに生かせるし、生かしていきたいと思える。

この講座がなかったら、不安に埋もれた中で何もできなかったのではと思う。

いろいろな教室からの出身の受講生が集まり、いろいろな考え方に触れ合えたことも大きな収穫だった。

②よかった講座（第4クール）は？

A) 「保護者からのお話（第13時）」が衝撃的だった。例えば「教師は傷の舐め合いをしている」「職員室は入りづらい」「学校は敷居が高くて行きづらい」などの、「学校や先生が好きじゃない」という話、もし聞いていなかったら、そんな人がいることもわからなかった。学校にどっぷり染まりたくない、と思った。

B) 「マナー実践（第3時）」がよかった。電話の実際場面など、ちゃんとやらなきゃ、と思えた。

C) 「4月スタート（第17時）」がよかった。「4月は忙しい」ということはよく聞いているが、具体的に何がどう忙しいか全くわからなかった。「忙しい」中身がわかり、見通しが見えた気がする。

「学級経営案づくり（第18時）」も、グループで話し合っ協力して計画を立てたことで、1人ではとても無理なことでも他の人に相談することがと

でも有効だと実感できた。

D)「保護者に関するもの(第13・14時)」が、自分が一番不安だった部分だったので、とてもよかった。電話でのクレーム対応の体験をして、固まってしまうと何もできなかったけれど、「こういうこともある」ということを実感できたことがとても大きいと思う。学校で実際に電話を受ける時に、頭の隅に置いておける。

「学校安全を考える機会(第15・16時)」では、子どもの命を預かって背負っている、守るんだ、という気持ちを持てた。

③改善が必要だと思う講座(第4クール)は？

A)「校務分掌(第2時)」。他のものは具体的にイメージできたが、これは、いろんな仕事があるのはわかったが、それぞれがどう機能してどう他とかかわっているのか、がわかるとよかった。

B)「学級経営案(第18時)」。グループ内で考える時間はあったが、全体で検討する時間がなかったのが残念だった。

C)「最後の講座(第20時)」が、各グループで書いたものを最後に互いに見合いたかった。全体共有の場がなかったのが残念だった。

D)私も「最後の講座(第20時)」。他のみんなは今、どんな不安を持っているのか、聞いてみたかった。

④今後「こんなテーマを入れてみたら？」というものがあれば。

B) 現職の先生に来ていただいて、Q&Aができる機会があればいいのでは？

A) 給食やそうじ、課外活動など、学校の日常の中での決め事など、どのようにしているのか、どのようにすればよいのかをテーマに入れたらいいかも。

⑤第4クール講座について他に何かあれば。

A) 外部機関とのつながりが大事と言われるが、学校しか見えていない。例えばソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの教育相談系に携わる方などとのかがわりが講座で持てるとうれしい。

⑥第3クール「2次対策セミナー」については？

B) 集団行動について、講座でやったことをもとに、持ち帰って自分たちで練習できたことがよかった。

D) 個人面接について、自分は面接系が苦手だった。ずっと苦手意識があったが、他の人が観察してくれて、メモでアドバイスしてもらって改善ポイントがわかった。とても自信がついた。これも、講座の後に持ち帰って教室の仲間と練習を重ねられた。

B) 個人面接では、見る目も育った。質問対応も想定ができた。「人の振り見て」という言葉があるけれど、人を見て自分の勉強になった。

C) 模擬授業は、いろいろな教科の授業を見て、自分のネタが増やせたように

思う。また、自分の気づかなかったクセとかもわかった。

A) 講座でやったことはどれも、その後でみんなでやって、「みんなでガンバロー！」という思いにつながった。

⑦第1クール（3年後期）や第2クール（4年前期）については？

C) 小論文は千葉県の教員採用試験では行わない。ここで学ばなかったら、自主的にはできなかったこと。やれてよかった。

D) 小論文をやったことで、自分がそのテーマに対して深く考えることができた。いろんなニュースへの目も養えた。

A) 何となく持っていた気がしていたことが、いざ書くとなると、ありきたりのことしかできないことを自覚した。書くことは、そのことに対して明確に持っていないと書けない。書くことで、自分の理解が深まった。早い段階から小論文ができてよかった。

B) 3年生のうちにこの講座を始められたのがよかった。積み重ねがなかったら、直前ですごい焦りになっていたと思う。早め早めに計画的にできた。みんなで助け合ってがんばれたことも大きい。

A) 講座の最初で教員採用試験の過去問題についても話をしていただき、時々進行状況も確認していただいてよかった。10人いると、やる人とやらない人、進み具合や深さ、モチベーションが大きく違う。講座で引っ張っていただき、自分もその都度確認しながら計画的にできた。みんなでやったことで、互いをいい意味で意識しながらできた。みんなでやれてよかった。

B) 講座に直接関係はしないが、勉強できる部屋も使わせていただいて、とてもうれしかった。なかなか勉強する場所があるようでない。いろいろな教室出身者が集まって、みんなで声を掛け合ってできたことが、自分にとってとても大きな力になった。

⑧講座を離れて、本学部に対して思うことがあれば。

C) 先生による。学校現場をとっても意識している先生、そうでない先生。中には「専門を好きでやっています」というだけしか思えない先生もいる。「学校現場に出て役に立つのか？」とってしまう。そうするとモチベーションが湧かない。「何のためにこのことを勉強しているのか？今やっていることがどこにどのように位置付いて、結び付くのか？」が有ると無いでは大きく違う。

B) 小学校課程の中でも教科が分かれていることは、強みになる。専門性を持って、そこからさらに発展させたり他の強化に広げたりして生かしていけるから。

A) 「総合教育って、何？」と聞かれた時に、説明できない自分がいる。「総合的に幅広く」というよさの反面、明確でない曖昧さ、モヤモヤさがある。

C) 教科は必修、でも外国語や総合的な学習の時間などは必修ではない。必修にしたらいいのに。

D) 特別支援教育も。

C) 介護等体験を私たちは1年生でやった。次の学年からは、3年生でやっている。介護等体験をしてから「単位を取りたい」と思っても遅くなる。必要性を感じさせる場が遅過ぎる。

A) 養護教諭養成課程に後輩がいる。食物アレルギーについて話をしていた。その子はすごく危機感を持っている。AEDやエピペンなども。養護教諭は学校の中でも立場が違う。養護についての知識や、養護教諭の立場についての理解も他の教室で必要なのでは。

C) 安全についても、必修じゃない。一番大事な命のことなので、どの教室の人でも必修にすべきではないかと思う。

A) 4年間で学ぶ授業の、何を必修にして、何を何年生でやって、というプログラムを、今の学校現場のことを頭に入れて、もう一度大きく作り直す、組み直すことが必要では。学校現場につながる大学の授業になってほしい。

3) 考察

学生にとって、「見えない」「わからない」ことが何よりも一番の不安であることが伺える。逆に、学校現場や教員の生活などの姿や状況を具体的に知ることができると、「教員を目指す」学生は、「何をどうするか」を考えていくことができ、モチベーションの向上にもつながることがわかる。また、受講生同士がかかわり合うことで、いわば「三人寄れば文殊の知恵」を実感している。

特に、「保護者からの話」や「電話対応」など、これまでのキャパシティにない情報や刺激を受けて、「やれば結果がついてくる」時ばかりではない、「一筋縄ではない社会」でもあることを知れた講座を「よい」と評価している。

逆に、活動が少なかったと判断した講座については、「改善の余地あり」として挙げている。ただし、この点については講座の最終時に担当教員（佐瀬）から「これまでの講座は『呼び水』である。非常に限られた講座の時間の中で必要な事柄を全て行うことはできない。『もっとこうすればよかった』と思うことは多々あろうが、それは講座の外で、ぜひ自分たち自身で実行して欲しい」旨を話しており、インタビューでも「もしもっと時間があったとしたら」という前提の意見であった。

講座の中に「現職教員とのかかわり」の実施を求めている声もある。この点については、同時期に行っている各教室での教職実践演習の中に「現職教員からの指導」の時間があるため、本講座ではあえて入れていなかったものである。つまり、本講座を単体としてではなく、他の授業等との関連性を図りながら、教員養成カリキュラム全体の中に位置付けていくことが必要であると考えられる。

第1～3クールについても、それらが自分（たち）にとって有意義なもの、役に立った、成長につながった、等の回答であった。

最後に、本学部の教育について質問したところ、教職に就いた先との関係性を非常に重要視していることがわかる。「大学の専門性」はもとよりのことであるが、その中にその授業・内容の意味や教育現場、現実社会とのかかわりをきちんと意味付け、学生の理解を図ることが極めて重要であることを示唆していると考えられる。大学教育もセイバートゥースカリキュラムに陥らない努力が重要である。

3 教員養成段階での実践的教師力に関する調査（１）～アンケート調査

（１）アンケート調査の意図と内容

教員を志望する学生が大学において何を学ぶべきか。

大学では、教育課程は学部が、授業は個々の教員が、それぞれ独自でカリキュラムを決めている。そこに通常、受講する学生の声は反映されにくい。まして大学外からの声は、大学に届くことがほとんどないのではないだろうか。

「教員養成」を標榜するならば、教員として求められる資質能力を大学・学部で身に付けて卒業できているかが大きな問題となる。その「教員として求められる資質・能力」がどのようなものか、大学・学部や大学教員が十分に理解していない限り、そのカリキュラムの適切性は望めない。

「教員として求められる資質能力」については、中央教育審議会答申等において示されている¹⁾。しかし、学校現場での教育活動に直接かかわっている立場、そして大学で学んで教職に就く学生自身が、それぞれ何を求めているかを知ることが、よりよいカリキュラムを策定・実践していく上で極めて重要であろう。

そこで、以下の３者を対象にして、教員養成の学生に必要な「教員として求められる資質能力」に関する意識をアンケート調査により探り、整理分析することにした。

- | |
|---|
| ア) 卒業後に教師になる大学生
イ) 学校において初任者教師に直接かかわる立場の教師
ウ) 学校及び教師に指導的立場でかかわる教育行政職員 |
|---|

具体的には、以下の通りである。

- | |
|---|
| ア) 実践的教師力育成講座第４クール参加者（回答２８名）
・講座最終日に案系と調査を実施（平成２７年２月６日）
イ) 千葉大学教育学部附属小学校教員（回答３１名）
・アンケート実施を附属小学校に依頼し、各教員が回答して、集約後に回収（平成２６年１２月～平成２７年１月）
ウ) 千葉県教育庁・教育事務所指導主事（回答６６名）
・県指導主事会議においてアンケート調査を実施（平成２６年７月１０日） |
|---|

このうちイ) 群は、年齢・教員経験で言うと、３０～４０歳くらいが多い。ミドルリーダーとして位置付けられるあたりである。ウ) 群は、学校現場で言えば教務主任・教頭・校長の立場に相当する経験を持つ群である。管理職・指導層教員に位置付けられる。つまり、ア) が初任前段階、イ) がミドル層教員、ウ) が管理職・指導層教員となり、ア) →イ) →ウ) の順で回答データが変化することが予想される。

次に、質問項目は以下の通りである。対象ア)・イ) に対しては質問項目①・②を、ウ) に対しては質問項目①のみを調査した。

- | |
|--|
| ①教員を目指す学生が、大学を卒業するまでに身につけておくべき「資質能力」として、どのような事柄が必要だと思いますか。
②大学の教員養成学部としては、学生が大学を卒業するまでに必要な「資質・能力」 |
|--|

を身につける上で、授業においてどのようなことを重視して行うことが必要だと思いますか。

質問項目①・②とも、優先順位が高いと考えられる順に箇条書きで10こ以内、自由に書き出してもらった。

- 1) 本報告書 p7 において、平成18年7月及び平成24年5月の中央教育審議会答申での「教師に求められる資質能力」について述べている。

(2) アンケート調査の結果と考察

ア. 質問項目①について

質問項目①「教員を目指す学生が、大学を卒業するまでに身につけておくべき「資質能力」として、必要だと思う事柄」について、対象ア) 実践的教師力育成講座第4クール参加者、イ) 千葉大学教育学部附属小学校教員、ウ) 千葉県教育庁・教育事務所指導主事に対してアンケートによる質問をした。

ア)～ウ)とも、3名以上の回答を一覧にしたところ、ア)は18項目、イ)は24項目、ウ)は40項目が挙げられた。

さらに、それらの回答を、中央教育審議会答申(平成24年5月)における「教師に求められる資質能力」として示された3項目に類型してみた。表中では、その3項目の「教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」をA、「専門職としての高度な知識・技能」をB、「総合的な人間力」をCとし、およそ、Aには「教職に対する、態度や姿勢・PDCA関係能力・自己向上等に関する事項」、Bには「授業や学級経営等の子どもの指導や教育内容に関する事項」、Cには「その人自身の知・徳・体、能力、態度等に関する事項」に関する回答項目を当てはめて示している。

以上の回答一覧をまとめたものが、次ページからの表3～表5である。

そして、表3～5の数値をそれぞれA～Cに類型して人数表示したものが表1、さらにその数値を%表示したものが表2である。

表1・2から、ア)～ウ)とも、C「総合的な人間力」が突出している。学校現場の経験が長い教員からも、その人自身の「人間力(能力や態度)」が基盤になり、その基盤の上に教員としての資質や専門性が積み重なるという捉え、ということであろう。

表2でイ)とウ)を比べると、Bはウ)がイ)より高い分、Cは逆にイ)の方が高くなっている。イ)(附属小学校教員)は学生に対して教育実習指導の立場で関わっている中で、学生自身の人間

【表1】質問1の回答A～C類型一覧(人数)

	A	B	C	計(人)
対象ア)	38	16	71	125
対象イ)	30	25	79	134
対象ウ)	82	78	191	351

【表2】質問1の回答A～C類型一覧(%)

	A	B	C	計(%)
対象ア)	30.4	12.8	56.8	100
対象イ)	22.4	18.7	59.0	100.1
対象ウ)	23.4	22.2	54.4	100

力の重要性をより強く感じている、ということであろうと思われる。

表2でア)～ウ)を比較すると、Bの数値がア)・イ)・ウ)の順に大きくなっている。一方、Aの値はア)のみ30%以上で、イ)・ウ)はそれより7～8%低く、ほぼ同値である。ア)(学生)は、教職に就く直前の時期であり、ちょうど講座の受講を終えたところであることから、講座を通して自身の教職への意識自体が教職生活に大きくかわることを強く感じた、ということであろうと思われる。

表3～5を見ると、ア)＜イ)＜ウ)と、項目が細かくなってくる。「教師力」に関する捉えの広がり・深まり・具体化の表れといえるだろう。

【表3】対象ア)の質問1への回答一覧

順位	人数	回 答	類型
1	14	計画を立てる力	A
2	13	専門性、専門的教養・知識、教科専門性	B
2	13	豊かな人間性	C
2	13	観察・理解する力	A
5	12	社会的教養、社会性	C
6	11	コミュニケーション力、人間関係形成力	C
7	9	不測の事態に対応できる力	C
8	6	豊かな経験	C
9	5	計画を実行する力	A
10	4	あきらめない、折れない、打たれ強さ	C
10	4	チーム力、協調性	C
12	3	授業力	B
12	3	伝える・聞く力	C
12	3	記録・管理能力	C
12	3	評価する力	A
12	3	自己理解・管理能力	C
12	3	社会への対応力	C
12	3	使命感、責任感、人間愛	A

【表4】対象イ)の質問1への回答一覧

順位	人数	回 答	類型
1	10	教養、一般常識、言葉遣い	C
1	10	子ども理解、見取りの姿勢	B
3	9	豊かな人間性、思いやり	C
3	9	対人関係能力、コミュニケーション力	C
5	8	教育者としての使命感	A
5	8	協調性、チーム力	C
7	7	忍耐力、精神的強さ、粘り強さ、諦めず努力する力	C
8	6	体力	C
8	6	専門的知識	B
8	6	自分のわからないことを聞く、報告連絡相談	C
8	6	教育、子どもへの熱意、愛情	A
8	6	課題解決能力	A
13	5	様々な立場から物事を考えられる想像力	C
13	5	健康、基本的生活習慣	C
13	5	授業力、教科指導力	B
16	4	実践的指導力	B
16	4	先輩の意見を素直に聞ける(謙虚さ)、誠実さ	C
16	4	積極性、チャレンジ性、やる気	A
16	4	言語力(聞く、話す、書く)	C
20	3	判断力	A
20	3	不測の事態に対処する力	C
20	3	責任感	A
20	3	自律性	C

【表 5】対象ウ) の質問 1 への回答一覧

順位	人数	回 答	類型
1	28	高い専門性、教職に関する専門的知識・技能	B
2	23	コミュニケーション能力	C
3	18	豊かな人間性、豊かな心	C
3	17	協調性、他人と協働する力	C
5	16	人間関係構築力、対人間関係能力	C
5	16	子どもの実態を把握し指導する力	B
7	13	柔軟な対応力	C
7	13	我慢強さ、忍耐力、粘り強さ、折れない心、乗り越える気力	C
9	11	向上心、チャレンジ精神	C
9	11	幅広く豊かな教養	C
9	11	社会人としてのマナー、礼儀、常識、挨拶、言葉遣い、身だしなみ	C
12	10	責任感	A
12	10	資料収集・分析・活用力	A
14	9	素直さ、正直さ	C
14	9	計画力、計画展開力	A
14	9	文書等事務処理能力	B
17	8	自ら学ぶ・学び続ける意欲	A
17	8	人を愛し受け止められる感受性、寛容性	C
17	8	危機管理能力	B
17	8	多様な体験(教育現場、講師、ボランティア、挫折体験等)	C
21	7	高い倫理観、服務・規則遵守	A
21	7	教育への情熱、子どもへの愛情	A
21	7	謙虚さ	C
21	7	保護者と連携・協力する力	B
25	6	使命感	A
25	6	観察力、状況把握力	A
27	5	問題解決能力	A
27	5	人権感覚、人権・福祉への理解	C
27	5	心身の健康、健康管理力	C
27	5	感性、知性	C
31	4	自己の自覚、自己理解力	C
31	4	外部研修への参加	A
31	4	学級経営能力、管理能力	B
31	4	基本的な知識、学力	C
31	4	計画的に物事に取り組む力	A
36	3	基礎体力	C
36	3	学校運営を円滑に進める能力	B
36	3	評価能力	A
36	3	授業力、教材研究力、指導案作成力	B
36	3	文章力、文章説明力	A

大学のカリキュラムは、教科等の専門性、即ち「専門職としての高度な知識・技能」が中心に組まれている。しかし学生が卒業して出て行く先の世界では、それ以上に「教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」や「総合的な人間力」が、教職に就くまでに必要な事柄として比重が大きい。このことは、大学教育の独自性という言い方もできようが、それ以上に、大学での学びと卒業後の社会との間の大きなミスマッチであるともいえる。大学の独自性を大切にしつつも、現実社会との関連性や整合性を図る努力が、大学に大きく問われているといえる。

イ. 質問項目②について

質問②「大学の教員養成学部として、学生が大学を卒業するまでに必要な「資質・能力」を身につける上で、授業で重視すべき事柄」について、対象ア) 実践的教師力育成講座第4クール参加者、イ) 千葉大学教育学部附属小学校教員、に対してアンケート

ートによる質問をした。

ア)～ウ)とも、3名以上の回答を一覧にしたところ、ア)は11項目、イ)は19項目が挙げられた。いずれも、B「授業や学級経営等の子どもの指導や教育内容に関する事項」→C「その人自身の知・徳・体、能力、態度等に関する事項」の順に多い。しかしBについても、実践的な内容がその中心を成している。つまり、理論と実践を結び付けた内容が求められているといえる。

【表6】対象ア)の質問2への回答一覧

順位	人数	回 答	類型
1	11	授業づくり、模擬授業、授業実践	B
2	11	グループワーク、コミュニケーション活動	C
3	9	専門性、専門的知識、教科専門性	B
4	8	自己表現の機会、発表、話し合い	C
5	8	現職教員とのかかわり	B
6	7	様々な人との交流(保護者、子ども、住民)	C
7	4	PDCA(計画、実行、評価)	A
8	4	専門性過ぎない(実践とのリンク)	B
9	3	子ども理解のケーススタディ	B
10	3	使命感・責任感の意識付け、育成	A
11	3	主体的学修態度の育成、考える機会	C

【表7】対象イ)の質問2への回答一覧

順位	人数	回 答	類型
1	19	実践的な学習(教材研究・開発、指導案作成、模擬授業、授業づくりなど)	B
2	7	体験、経験	C
2	7	コミュニケーション、人間関係づくり、チーム連携	C
4	5	現場を知っている先生の講義(現場での実践を踏まえた講義)	B
4	5	集団での話し合い、ディベート	C
4	5	PDCA(計画、実践、評価、改善)	A
4	5	専門的知識、教科専門性	B
8	4	実際に子どもとふれ合う、活動する(という視点)	B
8	4	幅広く豊かな教養	C
8	4	学校現場の授業や実習を通して	B
8	4	指導力の育成	B
8	4	礼儀、社会人性の育成	C
8	4	子ども理解	B
8	4	実践例の取り上げ	B
15	3	創意工夫	C
15	3	実践的な理論	B
15	3	課題図書、研究	B
15	3	書くことの位置付け	C
15	3	安全教育、危機管理、BLS	B

【表7】質問2の回答A～C類型一覧(人数)

	A	B	C	計(人)
対象ア)	7	35	29	71
対象イ)	5	58	33	96

【表8】質問2の回答A～C類型一覧(%)

	A	B	C	計(%)
対象ア)	9.9	49.3	40.8	100
対象イ)	5.2	60.4	34.4	100

5 教員養成段階での実践的教師力に関する調査（2）

～全国教育委員会等「教師塾」活動調査

「教師塾」という場合、その概念がいくつかに分かれる。まず、主体者については「公的機関」と「私的あるいは営利的機関」である。また、対象者については「教員を目指す者を対象とした活動」と「教員になっている者を対象とした活動」である。

文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」においては、「実践力のある教員の育成に向けた養成・採用・研修の抜本的な改革」の1つとして「教師塾の拡充」を取り上げ、その公募要領で「教師塾」について以下のように述べている¹⁾。

本調査研究において、「教師塾」とは、質の高い教員の養成・確保を目的として、教育委員会において開設され（てい）るもので、採用前の教員志望の学生や社会人を対象にし、指導主事や校長等による実践的な講義や実習を通じて教員に求められる資質を培うもの。名称は、各教育委員会によって異なっており、問わない。

本稿でいう「教師塾」活動は、これに倣い、「大学生等の教員を目指す者を対象とした公的機関（教育委員会）による活動」の範疇に制限して、以降述べていくこととする。

【注】

- 1) 平成26年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」公募要領p7。

（1）調査の方法及び内容

先行データ・研究やインターネット等により、「教師塾」活動を実施している都道府県市を調べ、それぞれの担当部署に連絡して、直接に訪問して話を伺う方法により調査を行った。平成26年9月～27年2月にわたって、計31都道府県市を訪問した。

今回、訪問調査をした都道府県市教育委員会は以下の通りである。内訳としては、14都道府県、10政令指定都市及びその他7市である。

	都道府県市	「教師塾」活動の名称	訪問年月日
1	北海道	北海道教員志願者養成セミナー	27.1.28
2	栃木県	とちぎの教育未来塾	27.1.9
3	茨城県	いばらき輝く教師塾	26.12.19
4	埼玉県	教員養成セミナー	26.11.12
5	東京都	東京教師養成塾	26.12.10
6	神奈川県	かながわティーチャーズカレッジ	26.12.9
7	石川県	いしかわ師範塾	27.1.14
8	滋賀県	滋賀の教師塾	26.9.17
9	京都府	教員養成サポートセミナー京都府「教師力養成講座」	26.9.16
10	奈良県	奈良県ディア・ティーチャー・プログラム	26.10.31

11	大阪府	大阪教志セミナー	26.10.31
12	岡山県	「教師への道」研修	27.2.18
13	山口県	山口県教師力向上プログラム	26.12.26
14	福岡県	教員養成セミナー	27.2.16
15	さいたま市	「教師力」パワーアップ講座	27.1.21
16	川崎市	輝け☆明日の先生の会	26.12.24
17	横浜市	よこはま教師塾「アイ・カレッジ」	26.12.24
18	相模原市	さがみ風っ子教師塾	26.12.17
19	横須賀市	よこすか教師 未来塾・希望塾	26.12.17
20	静岡市	しずおか教師塾	26.12.25
21	藤枝市	ふじえだ教師塾	27.1.16
22	岡崎市	岡崎教師塾「允文館（いんぶんかん）」	27.2.13
23	豊田市	教師養成講座	27.2.13
24	名古屋市	なごや教師養成塾	26.9.17
25	京都市	京都教師塾	26.9.16
26	大阪市	大阪市教師養成講座	26.10.30
27	堺市	堺・教師ゆめ塾	26.10.30
28	豊中市	豊中「マチカネ先生塾」	27.2.3
29	池田市	ふくまる教志塾	27.2.23
30	箕面市	箕面市教員養成セミナー「ぴあ・カレッジ」	27.2.23
31	北九州市	北九州実践教師塾	27.2.17

「教師塾」活動の実施の状況や内容については、これまでいくつかのデータが示されている。

「YOMIURI ONLINE」は平成26年12月19日に「元祖は東京…「教師塾」10年間の実り」という記事で、「文科省の調査によると」として、「昨年（平成25年）8月現在、全国67の都道府県・政令市教委のうち24教委が設置」と紹介している²⁾。

また、(独)教員研修センターは平成26年12月にHPにおいて「教育委員会が主催する研修会で、対象者に教員志望の大学生や社会人が含まれているものを「教師塾等」として掲載する」として、「各教育委員会「教師塾等」の開催状況について（概要）」をアップし、21都道府県市の実施概要を一覧にしている³⁾。

これらに挙げられている都道府県市と、本調査で訪問した都道府県市を比較すると、下表のようになる。

	「YOMIURI ONLINE」記事 ＋ (独) 教員研修センターHP	本調査で訪問した都道府県市
両方に挙げ ている	北海道・栃木県・茨城県・埼玉県・東京都・神奈川県・石川県・滋賀県・京都府・奈良県・大阪府・岡山県・山口県・福岡県・さいたま市・川崎市・横浜市・相模原市・横須賀市・静岡市・豊田市・名古屋市・京都市・大阪市・堺市・豊中市・北九州市	

片方のみ挙 がっている	宮崎県・浜松市・神戸市	藤枝市・岡崎市・池田市・箕面市
計	30 都道府県市	31 都道府県市

上表のうち、宮崎県・浜松市・神戸市の3県市は「YOMIURI ONLINE」記事にのみ名前が挙がっている。この3県市については、調査実施にあたって事前に行った電話での問い合わせ及びHP調査の結果、以下の回答を得た⁴⁾。

県市	回 答
宮崎県	「宮崎教師道場」という名称で、教員志望者及び若年層教員を対象に年間3回プログラムで実施。 内容は、1回目は「講話と教員採用選考試験説明会」、2回目は「教育公務員の使命と服務、学習指導、生徒指導・学校安全、人権教育等、教員として必要な基本的な知識等」、3回目は「各教科、特別支援教育等の基本的な指導の在り方、養護教諭の基本について等、実践的な指導方法」。 学生は1回目と3回目に参加可能。1回目は宮崎大学での教員採用選考試験説明会と併せて実施。3回目は臨任講師等の授業力アップセミナーと併せて実施。宮崎県教育委員会教職員課が主担当。
浜松市	「先生のたまご実力アップ講座」という名称で、2回（1/17・31）実施。講師登録者を中心に設定しており、大学生については「参加も可」というスタンス。30～40人中の半分程度が大学生。浜松市教育センター（研修担当）が主担当。
神戸市	「読売新聞に掲載されたが、学生対象の塾活動は実施していない」とのこと。（市教委庶務課）

以上のことから、宮崎市・浜松市については「大学生対象の継続的なプログラムとしての『教師塾』活動」とまでは言いにくいこと、そして神戸市については「実施していない」ことから、調査の対象から外した。

また、そのほかの先行研究等において、杉並区と三鷹市が挙げられている⁵⁾。この両区市については、本調査では訪問していない。三鷹市については、本調査において日程の調整ができずに訪問を見送った。

杉並区については、「杉並師範塾」という名称で平成17年度にスタートしたが、平成23年3月に閉塾した。このことについては、杉並区教育委員会HPにおいて以下のよう述べている⁶⁾。

杉並師範館の開塾から閉塾まで 杉並区教育委員会（区教委）は、地域に根ざした教員を区独自で採用（区費教員）するため、平成17年度に設立された「教師養成塾 杉並師範館」と協定を結び、1年間同館で養成した人材を19年度から採用、23年4月には120名程の人材を区立全小学校に配属しています。 これにより、30人程度学級・専科制の実施など、特色ある教育活動の継続的な
--

実施体制が区立全小学校で整ったことを踏まえ、区教委は23年度をもって採用を終了し、杉並師範館も五期生（22年度生）の養成を最後に、23年3月閉塾いたしました。

この他に、例えば千葉県では千葉県総合教育センターにおいて「学生のための教師未来塾」を実施しているが、これは1回のみプログラムで、「今、教師に求められているもの」「授業づくりのポイント」という2つの講話の後、「児童理解と集団づくり等」について班別協議を行い、最後に報告会をするというものである⁷⁾。宮崎県・浜松市と同様の理由で、訪問調査の対象から外した。

また、訪問調査を進める中で、例えば愛知県豊橋市でも「教師塾」活動を行っているとの情報を得た。しかし、本年度内の訪問日程が取れないことが見越せたため、訪問調査の対象に入れず、電話調査も行っていない。この他にも、「教師塾」活動を行っている自治体は全国にあるものと思われる。

【注】

- 2) YOMIURI ONLINE「教育／教育ルネサンス／現場再訪（5）元祖は東京…「教師塾」10年間の実り」2014, 12, 19。
<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/renai/20141212-0YT8T50055.html>
- 3) (独) 教員研修センターHP「センターについて／教育委員会、教育センター、研修担当の方へ／各教育委員会「教師塾等」の開催状況について」
<http://www.nctd.go.jp/PDF3/koushijyuku201412.pdf>
- 4) 宮崎県「宮崎教師道場」のWeb記載は、宮崎県HP「暮らし・教育／教育・生涯学習／教職員／平成26年度「宮崎教師道場」の案内」
<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/ky-kyoshokuin/kurashi/kyoiku/page00115.html>
 浜松市「先生のたまご実力アップ講座」のWeb記載は、
<http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/hamakyo-c/h26tamagoannai.pdf#search=%E6%B5%9C%E6%9D%BE%E5%B8%82%E6%95%99%E8%82%B2%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC+%E5%85%88%E7%94%9F%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%81%BE%E3%81%94%E8%AC%9B%E5%BA%A7>
- 5) 先行研究等としては、以下のものである。
 - ・教育改革ing「教師養成塾」pp36-44 2008, 5。
 - ・村田俊明「一部自治体・教育委員会による『教師塾』の開設と教員養成改革」摂南大学教育学研究5 pp65-82 2009。
 - ・時田詠子「教育養成課程における『実践的指導力』の捉え方に関する一考察—当事者の捉え方の違いに着目して—」早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊17号—1 pp249-259 2009。
- 6) 杉並区教育委員会HP「先生に関すること／杉並師範館」
<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/teacher/shihankan.html>
- 7) 千葉県総合教育センター「学生のための教師未来塾」のWeb記載は、

(2) 調査の実際

本調査では、31都道府県市の「教師塾」活動担当部署を訪問し、それぞれ約1時間程度のインタビュー調査を行った。

内容は、以下の11項目を共通とした。

1. 開設・実施した目的や背景及び経緯
2. これまでのプログラムの歴史及び内容の変化・進展
3. 現在のプログラム内容及び講師等
4. 受講生（学生）募集や応募の状況、参加学生の構成
5. プログラムへの参加による塾生の資質能力の変容
6. 大学との関係
7. 教員採用とのかかわり
8. プログラム出身教員の学校現場での様子
9. 成果と課題
10. 今後の計画・方向性
11. その他

本調査研究のテーマが「大学における教員志望学生を対象とした「実践的教師力育成プログラム」の開発」であることを踏まえ、以降、各「教師塾」活動の内容・方法に係る範囲に限定して、各々の概要をまとめて載せる。ただし、本報告書では全体を通しての分析までは行っていない。

①北海道(北海道教員志願者養成セミナー)		
《日数》5日間(8～10月) 《開始年度》平成21年度		
《目的》・教育の重要性や知識、指導力についての理解の深化		
・教職に対する意欲・情熱の醸成		
	内 容	開催日
1	開講式	土曜日
	①講話「北海道の教員を目指す方々に期待すること」	・午前
	②説明「北海道公立学校教員選考検査の実施内容」	～③
	③パネルD「教師という仕事の魅力について」	・午後
	④講義・演習「児童生徒一人一人のよさをのばす教育活動を目指して」	④～
2 ～ 4	⑤講義・演習「すべての児童生徒がわかる授業を目指して」	
	学校体験(3日間)	平日
	【授業見学】学校における授業参観	
	【観察体験】担当教員等の日常の教科指導や業務全般を観察	
5	【支援活動】総合的な学習の時間や学校行事等の補助に参加	
	①報告・協議「学校体験を終えて」	土曜日
	②講義・演習「豊かな心をはぐくむ道徳教育について」	・午前
	③講義「学校・地域が連携して進める教育について」	～②
	④パネルD「学校、家庭、地域との協力、連携やPTA活動について」	・午後
	⑤講話「これからの教師に求められること」	③～
	閉講式	

②栃木県(とちぎの教育未来塾)				
《日数》10日間(10～3月) 《開始年度》平成22年度				
《特徴》・専門的な立場からの講義による実践的な研修				
・少人数のグループ協議を通して、教員と学生等が共に学び合う研修				
・受講者自身の教育観を深められるような講座内容を目指している				
No.	実施日	時間	内 容	研修区分
1	10月4日	9:30-10:30	開講式	必修
2	(土)	10:50-12:00	子どもとのかかわり	必修
3	10月18日	9:30-10:30	学級経営の在り方(小・中・特)	必修
	(土)		ホームルーム経営の在り方(高・特)	
4		10:40-12:00	学級経営・ホームルーム経営の実際	必修
5	11月1日	9:30-10:30	配慮を要する子どもの理解と支援	選択
6	(土)	10:40-12:00	特別活動で子どもたちを育てよう	選択
7	11月29日	9:30-11:10	児童・生徒指導の実際	必修
8	(土)	11:20-12:00	特別講座	必修
9	12月13日	9:30-10:40	教科指導の実際1	必修
10	(土)	10:50-12:00	教科指導の実際2	必修
11	1月10日	9:30-10:40	道徳教育で子どもたちの心を育てよう	必修
12	(土)	10:50-12:00	道徳の時間の授業の実際(小・中・特)	選択
			キャリア教育の実際(高・特)	選択
13	1月30日		栃木県教育研究発表大会への参加	選択
14	1月31日			
15	2月14日	9:30-10:40	子どもたちの体力向上のために	選択
16	(土)	10:50-12:00	幼児期の学びとは	選択
17	2月21日	9:30-10:30	子どもたちの学力向上のために	必修
18	(土)	10:50-12:00	子どもが主体的に取り組む授業づくりを目指して	必修
19	3月7日	9:30-10:40	保護者や地域の期待	必修
20	(土)	10:55-12:00	閉講式	必修

③茨城県(いばらき輝く教師塾)				
《日数》6日間(10～12月) 《開始年度》平成26年度				
《特徴》・人間関係づくりに重きを置いた内容				
・若手教員と教員を目指す者がともに研修を受講				
回	実施日	時間	内 容	
1	10月4日	9:00-9:30	開講式(教育長講話・教師塾について)	
	(土)	9:40-12:10	社会人として 教師として	
2	10月18日	9:00-10:30	子どもたちとの効果的なコミュニケーションスキル	
	(土)	10:40-12:10	学級で気になる子どもたちへの支援を考えよう	
3	11月1日	9:00-10:30	なぜ人権教育は必要なのか	
	(土)	10:40-12:10	魅力のある輝く学級づくり—保護者や地域とともに—	
4	11月15日	9:00-10:30	子どもたちが主役の学級づくり	
	(土)	10:40-12:10	震災のとき私たちは	
5	11月29日	9:00-10:30	豊かな心を育むために	
	(土)	10:40-12:10	子どもたちが輝く授業づくり	
6	12月13日	9:00-10:30	子どもたちがわかる授業づくり	
	(土)	10:40-12:00	保護者の思い	
		12:10-12:30	閉講式	

④埼玉県(埼玉教員養成セミナー)			
《日数》講演・講義・演習10日間(1～9月) 学校体験実習40日間(1～9月)			
体験活動7日間程度(長期休業中など)			
《開始年度》平成18年度			
《育成する資質》・教師としての熱意や使命感 ・実践的な指導力と豊かな人間性			
・社会人としての責任ある態度			
《講演・講義・演習》			
回	実施日	午 前	午 後
1	1月14日	開講式 記念講演(講演1)「小学校教員に期待すること」	専任講師との打合せ 講義・講演2「学級経営と特別活動」
2	2月2日	講義・演習3「セミナーでの学びについて」 演習4「人間関係づくり」	講義5「自立する児童の育成」 専任講師との打合せ
3	3月16日	専任講師との打合せ 講義・演習6「教室にこんな子いませんか」	講義7「セミナー生に期待すること」 演習8「セミナー卒業生に学ぶ」
4	4月6日	教育情報2 講義・演習9「学校体験実習で学んだこと①」	教育情報1 講義10「授業づくりの基礎基本と評価」
5	4月20日	教育情報3 講義・演習11「算数の授業づくり」	専任講師との打合せ 講義・演習12「言語活動の充実」
6	5月11日	専任講師との打合せ 講義・演習13「体育の授業づくり」	専任講師別情報交換 講義・演習14「はつらつ先生に学ぶ」
7	6月1日	教育情報6(1)「体験活動について」 講義・演習15「学校体験実習で学んだこと②」	教育情報5 専任講師との打合せ 講義・演習16「外国語活動の授業づくり」
8	6月22日	講義・演習17「理科の授業づくり」	教育情報7(2)「体験活動について」 専任講師との打合せ
9	7月20日	専任講師との打合せ 講義・演習19「社会人としての接遇」	講義・演習18「合唱指導」 講義・演習20「保護者が新任教員に期待すること」
10	9月28日		教育情報8「成果発表会、閉講式について」 閉講式
⑤東京都(東京教師養成塾)			
《日数》特別教育実習40日程度 講義9日間(4～3月)			
ゼミナール18回(4～3月) 体験活動(企業等就業体験)夏休み5日			
《開始年度》平成16年度			
《求める資質・能力》			
・領域①「教師のあり方に関する領域」5項目			
・領域②「各教科等における実践的な指導力に関する領域」8項目			
・領域③「学級経営に関する領域」4項目			
《4講座のねらいとテーマ》			
・特別教育実習「実践的指導力や柔軟な対応力を培う」			
・講義「視野を広げ社会性を養う」			
回	テーマ		回 テーマ
1	心と心をつなぐ		6 国際的な視野をもつ
2	夢や希望をもち続ける		7 自己の教養を高める
3	より高い目標にチャレンジする		8 命の大切さを学ぶ
4	あなたもわたしも大切な一人		9 若き教師に期待する
・ゼミナール「各教科などの専門性や指導技術の向上及び学級経営における実践的指導力を身に付ける」			
回	テーマ		回 テーマ
1	特別教育実習で身に付ける実践的指導力		8 フィールドワークを取り入れた学習
2	授業づくりの基礎〈公開〉		9 集団を把握する
3	児童理解と学級づくり		10 授業を磨く／教師に求められるもの
4	単元を通した授業づくり		11 各教科等の特性に応じた授業づくり〈公開〉
5	学級づくりの基礎		12 言語活動の充実を図る取組の実際
6	子供に夢や希望を持たせる		13 学習における子供の安全を守るために
7	学校教育の使命と役割／一人一人が輝く学級づくり		14 保護者との信頼関係を築くために
※7～9回は合宿			
・体験活動「教師としての使命感や志を高め、社会人としての責任ある態度を養う」			

⑥神奈川県(かながわティーチャーズカレッジ)			
《日数》①かながわ教育学講座14日(閉講式含む／8～3月)			
②特別講座3日(9～11月)			
③実践力向上講座(9～2月)		※チャレンジコースは①～④の全てに参加	
④スクールライフサポーター(12日以上)		※オープンコースは①・③のみ参加	
《開始年度》平成20年度			
《期待される受講者の姿》			
【人格的資質・情熱】教育に対する情熱・子どもに対する愛情			
【授業力】授業についての理解・授業づくりへのチャレンジ			
【課題解決力】教職に対する課題意識・教員の仕事についての理解			
《4講座のねらいとテーマ》			
①かながわ教育学講座「かながわの教育の特色を知り、教員の仕事について理解を深める			
回	テーマ	回	テーマ
1	開講式・記念講演	8	学級経営を考える
2	受講者に期待すること	9	児童・生徒理解
3	子どもを大切にすること	10	授業づくりを学ぶ②
4	いま求められる授業	11	教員という仕事の魅力と責任
5	かながわの支援教育	12	授業発表
6	授業づくりを学ぶ①	13	授業発表
7	仲間づくり 集団づくり	14	閉講式
②特別講座「小学校・特別支援学校に特化した学びを深める			
回	小学校	回	特別支援学校
1	子供の命を守る	1	子供の命を守る
2	信頼関係を築く共感的な対話の在り方	2	特別支援学校の現状と課題
3	小学校における学級経営	3	特別支援学校における授業づくり
③実践力向上講座「学校現場等で教員の仕事を見学・体験しながら学ぶ」			
④スクールライフサポーター「学校ボランティア体験を通して、子ども理解、授業、学級経営等について学ぶ			

⑦石川県(いしかわ師範塾)								
《日数》①標準コース／講義・演習23講座(8～6月)・学校実習80時間(10～3月)								
②短期コース5日(8月・2月・3月・3月の4回実施)								
《開始年度》平成25年度								
《期待される受講者の姿》								
【指導の4つの柱】教師としての心構え、実践的指導力の養成、コミュニケーション力の育成、教育体験の充実								
《標準コース／講義・演習のテーマ》								
月日		回	テーマ	月日		回	テーマ	
8/23(土)	全日	1	めざせ石川の教師1	1/10(土)	午後	12	やる気をおこす導入2(模擬授業⑤)	
		2	めざせ石川の教師2	2/28(土)	午後	13	相手に伝わる話し方・聞き方	
		3	学級づくりのポイント			14	やる気をおこす導入3(模擬授業⑥)	
9/27(土)	午後	4	授業のつくり方1(模擬授業①)	3/21(土)	全日	15	子どもの人権を守るには	
10/11(土)	午後	5	授業のつくり方2(模擬授業②)			16	効果的に教員を使おう	
10/18(土)	全日	6	先生ときまり1	4/11(土)	午後	17	子どもを育てる評価と指導(模擬授業⑦)	
		7	子供のほめ方・叱り方	5/16(土)	午後	18	困った場面の対応	
11/8(土)	午後	8	授業のつくり方3(模擬授業③)	5/30(土)	午後	19	まとめを意識した導入1(模擬授業⑧)	
11/29(土)	午後	9	ベテラン教員に学ぼう(示範授業)	6/6(土)	午後	20	先生ときまり2	
12/13(土)	全日	10	個に応じた授業			21	まとめを意識した導入2(模擬授業⑨)	
		11	やる気をおこす導入1(模擬授業④)	6/20(土)	全日	22	まとめを意識した導入3(模擬授業⑩)	
						23	めざせ石川の教師3	
《短期コース／講義・演習のテーマ》								
月日	テーマ			テーマ				
8/18(月)	全日	午前／めざせ石川の教師1・学級づくりのポイント		午後／授業のつくり方1(模擬授業①)				
8/19(火)	全日	午前／めざせ石川の教師2・先生ときまり		午後／やる気をおこす導入1(模擬授業②)				
8/20(水)	全日	午前／子どものほめ方・叱り方		午後／授業のつくり方2(模擬授業③)				
8/21(木)	全日	午前／相手に伝わる話し方・聞き方		午後／ベテラン教師に学ぼう(示範授業)				
8/22(金)	全日	午前／まとめを意識した導入(模擬授業④)		午後／個に応じた支援(発達障害の理解)				
				めざせ石川の教師3				
※上記はA日程。B日程2/20(金)～27(金)、C日程3/4(水)～10(火)、D日程3/16(月)～20(金)の5日間								

⑧滋賀県(滋賀の教師塾)			
《日数》①必修講座15日(10～6月) ②学校実地体験10日(11～6月)			
③選択講座3講座(県教委主催事業・県総セ研修講座などから選択受講)			
○スタンダードコース／必修講座＋学校実地体験＋選択講座＝28講座			
○アドバンスコース／必修講座(○6＋4つの☆から1＝7講座)＋選択講座＝10講座			
《開始年度》平成19年度			
《目標》・めざす教師像を確かなものにする(教師観) ・実践的指導力を身につける(即戦力)			
・教育観を深め、人間性を磨き、資質を高めあう(切磋琢磨)			
《必修講座》教育への思いを高めるために			
月日	回	講座名	内容・コース
10/4(土)	午後	1 ○入塾式・オリエンテーション	「教職を志す仲間との出会い」
10/25(土)	午後	2 ☆教育基礎講座Ⅰ	「確かな学力」についての講義と演習
11/15(土)	午後	3 ☆教育基礎講座Ⅱ	「児童生徒の仲間づくり」についての講義と演習
11/29(土)	午前	4 教育基礎講座Ⅲ	「教育施設」としての琵琶湖博物館の見学と実習
12/13(土)	午後	5 教育基礎講座Ⅳ	「求められる教師像」についての講義と演習
1/17(土)	午後	6 ○生徒指導実践講座Ⅰ	「学級づくりの手法」についての講義と演習
1/31(土)	午後	7 ○生徒指導実践講座Ⅱ	「学校・家庭・地域の連携」についての意見交流
2/14(土)	午後	8 ☆生徒指導実践講座Ⅲ	「特別支援教育・国際理解教育及び人権教育」についての講義と演習
2/28(土)	午後	9 ○生徒指導実践講座Ⅳ	「いじめ問題」や「不登校」への対応についての講義と演習
3/14(土)	午後	10 ☆人間学講座	「新しい教育手法」と「教師の生き方」についての講義と演習
4/18(土)	午後	11 教育実践講座Ⅰ	模擬授業のための「学習指導案の作成」
5/9(土)	午後	12 教育実践講座Ⅱ	模擬授業のための「マイクロティーチング」
5/23(土)	午後	13 ○教育実践講座Ⅲ	「模擬授業」の実施と評価・交流
6/6(土)	午後	14 教育実践講座Ⅳ	「学校実地体験」のまとめ
6/20(土)	午前	15 ○卒塾式(修了書甲府)	「滋賀の教師塾」の振り返り
《学校実地体験》教育への理解を深めるために			
《選択講座》教育への見識を広めるために			

⑨京都府(京都府「教師力養成講座」)			
《日数》①「夢・未来」講座13日(2～6月) ②教育実践演習20日以上(2～6月)			
③選択講座3講座(県教委主催事業・県総セ研修講座などから選択受講)			
○スタンダードコース／必修講座＋学校実地体験＋選択講座＝28講座			
○アドバンスコース／必修講座(○6＋4つの☆から1＝7講座)＋選択講座＝10講座			
《開始年度》平成20年度			
《目的》教育実践力を養成し、将来の京都府の教育を担う人材を育成する			
《夢・未来講座》学級経営、児童理解等、各分野に関し学校現場での実践に基づいた特別講義			
回	月日	時間	講座内容
1	2/5(水)	18:30～	〈開講式〉先輩修了生からのエール、演習校別オリエンテーション
2	2/19(水)	18:40～	児童生徒理解
3	2/26(水)	18:40～	人権教育
4	3/5(水)	18:40～	特別支援教育
5	3/15(土)	13:00～	〈オープン講座〉教職員の服務、授業づくり・学級経営
6	3/26(水)	18:40～	「ことばの力」言語力の育成
7	4/9(水)	18:40～	心の教育「道徳の時間」
8	4/15(火)	18:40～	外国語活動(小)、生徒指導(中)、重度・重複障害児対応(特)
9	4/23(水)	18:40～	模擬授業「演習」
10	5/10(土)	9:30～	〈オープン講座〉京都府の学校教育、学校と保護者・地域との連携
11	5/21(水)	18:40～	学校に対する苦情への対応
12	5/31(土)	13:00～	〈オープン講座〉いじめ・問題行動への対応、安心・安全な環境づくりと安全教育
13	6/25(水)	18:30～	〈閉講式〉養成講座の総括(発表)
《教育実践演習》専任の指導教員のもと、学校現場での授業、学級活動、行事等教育活動に関する演習			
※京都府「教師力養成講座」と教員養成サポートセミナーと学生ボランティアの3つを合わせて「教員を目指す学生」支援プログラムとして構成			
《教員養成サポートセミナー》大学と連携した約半年間のインターンシップ			
《学生ボランティア》京都府公立学校における教育ボランティア			

⑩奈良県(奈良県ディア・ティーチャー・プログラム)		
《日数》小学校・中学校(国・社・数・理・英)の教諭志望		
	①ワークショップ10日(9～6月)	
	②学校現場実習20日程度(計100時間以上／9～3月)	
	中学校(音・美・技・家・体)・高等学校・特別支援学校・養護教諭志望	
	○学校現場実習16日程度(計80時間以上／9～3月)	
《開始年度》平成20年度		
《目指すもの》		
	Dream・・・「夢」の実現に向けて学び続けていただきたい	
	Energy・・・「情熱」をいつまでも絶やすことなくもち続けていただきたい	
	Affection・・・枯れることのない「愛の心」をもっていただきたい	
	Relationship・・・子ども、保護者。地域の方々とも深い「絆」を是非築いていただきたい	
《ワークショップ》		
回	月日	講座内容
1	9/6(土)	☆ 開講式 奈良県の教育課題講義
2	9/20(土)	☆ モデル授業、授業づくり
3	10/11(土)	★ 模擬授業、野外活動事前学習
4	11/16(土)	★ 野外活動(県立野外活動センター)
5	12/13(土)	★ 模擬授業
6	1/17(土)	★ 模擬授業
7	4/18(土)	実践 特別支援教育講義、学級づくり
8	5/17(日)	実践 模擬授業、生徒指導講義
9	5/30(土)	実践 模擬授業、保護者対応
10	6/20(土)	実践 ファイナル授業、修了式
《ハロー・ティーチャー・プログラム》(2年生) ワークショップの☆は必須、★は自由参加		

⑪大阪府(大阪教志セミナー)		
《日数》12日(8～3月)		
	②実地実習20半日 ③府内研究発表大会への参加1回	
《開始年度》平成20年度		
《目的》教員として求められる資質や基礎的な指導力を養う		
○大阪府教育委員会が求める人物像		
	豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性	
《ワークショップ》		
回	月日	講座内容
1	8/24(日)	開講式・オリエンテーション・クラス開き
2	9/7(日)	講演「生き方を学ぶ(外部講師)」 講義・演習「『傾聴スキル』を身に付けよう」
3	10/5(日)	連続講座「授業力を身に付けよう1」 連続講座「授業力を身に付けよう2」
4	10/25(土)	自然体験実習(宿泊)「大阪府立少年自然の家」
	10/26(日)	「自然体験活動」「体験活動の意義」等
5	11/16(日)	連続講座「授業力を身に付けよう3」 連続講座「授業力を身に付けよう4」
6	11/30(日)	連続講座「授業力を身に付けよう5」 講義・協議「すべての子どもを理解し支援するために1」
7	12/14(日)	連続講座「授業力を身に付けよう6」 講義・協議「すべての子どもを理解し支援するために2」
8	1/18(日)	連続講座「現場の先生に学ぶ1」 連続講座「授業力を身に付けよう7」
9	2/1(日)	連続講座「現場の先生に学ぶ2」 連続講座「授業力を身に付けよう8」
10	2/15(日)	連続講座「授業力を身に付けよう9」 連続講座「現場の先生に学ぶ3」
11	3/1(日)	講演「これからの学校」(府内学校長)
12	3/22(日)	閉講式・セミナーまとめ

⑫岡山県(「教師への道」インターンシップ事業)		
《日数》①学校現場における実地体験(インターンシップorボランティア)		
②「教師への道」研修7日(6～3月)		
《開始年度》平成20年度		
《目的》教職への適性の確認、多様化及び複雑化する学校教育への理解の深化、実践的指導力の基礎の獲得		
《「教師への道」研修》		
回	月日	テーマ・内容等
1	6/30(日)	開講式・講義「教師としての子どもへのまなざし」
		午前【開講式】①挨拶 ②説明等 ③先輩による講演
		午後【講義】「教師としての子どもへのまなざし」
		1「児童・生徒指導の視点」 2「特別支援教育の視点」
2	7/15(月)	「教師として必要な基礎的実践力」
		午前【講義】「教師として必要な基礎的実践力」
		午後【グループ協議】「教師に必要なもの①」
3	8/11(日)	「よりよい教師になるために」
		午前【講義・演習】コーチング研修「よりよい教師を目指して」
		午後【グループ協議】「教師に必要なもの②」
4	9/1(日)	「よりよい授業とは」
		午前【講義・演習】「よりよい授業とは」
		午後【グループ】「よりよい授業を目指して～模擬授業に向けて～」
5	10/20(日)	「模擬授業・研究協議1」
		午前【グループ別】模擬授業・研究協議
		午後【代表】模擬授業・研究協議
6	10/27(日)	「模擬授業・研究協議2」
		午前【グループ別】模擬授業・研究協議
		午後【代表】模擬授業・研究協議
7	3/15(土)	「インターンシップ・シンポジウム」
		1実践発表 2講演 3その他

⑬山口県(山口県教師力向上プログラム)		
《日数》①教師力養成講座5日(11～2月)		
②教師力養成体験実習		
		・教師力養成体験実習①4日以上or6日以上(11/10～1/23)
		・教師力養成体験実習②(指定教育実習)6日以上(2/16～27)
《開始年度》平成26年度		
《目的》授業力や生徒指導に関する力などの実践的指導力の養成、将来の山口県教育を担う人材の育成		
《「教師への道」研修》		
回	月日	テーマ・内容等
1	11/8(土)	全日・開講式 小学校における児童生徒理解 ・いじめ・問題行動への対応 心の教育「道徳の時間」
2	11/22(土)	全日・授業づくり・学級経営 人権教育 ・小学校における特別支援教育
3	12/27(土)	午後・ICTを活用した教育実践 (ちゃぶ台次世代コーホートへの参加)
4	1/10(土)	全日・国語・理科の模擬授業 小学校における外国語活動 ・信頼される学校づくり (学校と家庭・地域との連携／コミュニティ・スクール ／様々な要求・要望への対応)
5	2/28(土)	全日・安心・安全な環境づくりと安全教育 報告会 閉講式

⑭福岡県(ふくおか教員養成セミナー)		
《日数》5日(11～3月)		
《開始年度》平成23年度		
《目的》教職に対する熱意の醸成、福岡県の魅力ある教育実践にふれる機会の提供		
回	月日	内 容
1	全体	11/23(土) 開講式・記念講演
2	2 会場	外国語活動(模擬授業)／国語教育(模擬授業)
3		特別支援教育(講義)／児童・生徒理解(グループ討議)
4		算数教育(模擬授業)／理科教育(模擬授業)
5	全体	3/8(土) 現役若手教員との懇談会・閉講式
		福岡会場(第2回12/7、第3回1/11、第4回2/8)
		北九州会場(第2回12/14、第3回1/25、第4回2.22)

⑮さいたま市「教師力」パワーアップ講座	
《開始年度》平成17年度「教師力養成塾」の名称で開始。平成18年度から改称	
《特徴》各自の意思と都合に合わせた自由参加型の自主的・自発的研修会	
《目的》①実践的指導力の向上 ②学び続ける教員の支援 ③資質能力の向上	
《内容》	
○サークル的要素をもつ講座(15講座)	
・浦和国語の会 ・さいたま実践国語の会 ・STEP UP! 社会科	
・さいたま市中学校社会科サークル ・「観察・実験の基礎だ!」中学校理科の会	
・科学大好き! プロジェクト ・さいたま市数学教育授業研究会SSJ(数学サークル)	
・生き生き生活科 ・英語の授業実践を学び合おう ・ザ・体育 ・合唱しよう会	
・浦和特活の会 ・学校・学級経営サークル ・みんなでどうとく!	
・「道徳の時間」授業づくりのコツ(開催母体「さくらそう」)	
○サークル的要素をもつ講座(15講座)教育委員会主催の講座(14講座)	
・中学国語「明日から使える! 中学国語実践講座」 ・小学校社会科はじめの一歩	
・算数・数学パワーアップ講座 ・小学校音楽科〜明日の授業に役立つレシピー〜	
・なるほど美術館 ・実技で学ぼう図画工作、美術!	
・「技術・家庭科」授業づくりのアイディア(技術分野)(家庭分野)	
・元気アップサークル〜学級開き講座〜(年1回(4月上旬)実施)	
・みんなで学ぼう! 発達障害 ・通常の学級における特別支援教育	
・特別支援教育の専門性を向上させよう	
・教職員のためのメンタルヘルス・リラクゼーションと身体表現の講座	
・人間関係プログラム ・日本語指導が必要な児童生徒の支援方法講座	

⑯川崎市(輝け☆明日の先生の会)			
《日数》7日(5〜9月)			
《開始年度》平成18年度			
《テーマとねらい》ステージ1「川崎の教育」			
信頼される教師を目指す意欲・意志の向上、教育に対する考えの整理			
ステージ2「授業づくりと子ども理解に基づく学級経営			
教師としての指導力の向上、子どもを理解する力の向上、学級経営力の養成			
	回	月日	午前(講義・研修) 午後(ゼミ)
ステージ1	1	5月10日	開講式 講話 ①かわさき教育プランと川崎市の教育現場の実情 ②私のこれまでの生き方と父母が期待する教師像 ③特別支援教育〜子どもの成長の仕方と 学び方の違いを理解する
	2	6月14日	④児童生徒理解 〜子どもとの関わり方・向き合い方 〜いじめを見つけ出す工夫と指導
	3	6月28日	⑤人権尊重教育と国際理解教育 ⑥学習指導要領と川崎の授業づくりの魅力 ⑦学習指導案とよりよい授業づくり1 (教材、指導計画、評価、発問、板書、 ノート指導、ICT活用等)
	4	7月12日	⑧よりよい授業づくり2(グループ学習、授業を見直す)
	5	7月26日	⑨実習2 授業をイメージする(模擬授業に向けて) ⑩グループ協議① よい授業とは(グループ協議) グループ協議② よい学級とは(全体発表)
	6	9月13日	⑪学級経営のポイント ⑫学び続ける教師と教師の同僚性(連携と協議)
ステージ2	7	9月27日	⑬教師をめざす皆さんへエールをおくる 閉講式 講話
			※ゼミA・・・講話講師・助言者が統一課題を提起し、受講生がレポート等作成、それを基に協議 ゼミB・・・受講生が講話と関連した課題を設定し、レポート作成、それを基に協議

⑪横浜市(よこはま教師塾「アイ・カレッジ」)	
《時間数》250時間以上136コマ(10～6月)	
第Ⅰ期 10～12月 第Ⅱ期 1～3月 第Ⅲ期 4～6月	
《開始年度》平成19年度	
《3つのアイ》Eye(鍛える)・愛(高める)・I(磨く)	
《講座の5分野と主な内容》	
個の力を磨く	
指導案作成、模擬授業 学級経営基礎講座 コミュニケーション力向上講座	
社会人基礎力育成講座 教育課題対応力養成講座 教職教養基礎講座	
文章作成力養成講座 その他、効果測定等	
自らの体験からつなげる	
宿泊集中講座 自然体験講座 フィールドワーク	
学校で学ぶ・学校と学ぶ	
学校での優秀教員などの授業参観 学校の宿泊行事への参加	
授業づくり講座への参加	
視野を広げ、明日を拓く	
特別講座(著名人による特別講演)	
横浜の教育の「いま」を知る	
指導主事や教育研究者からの講義 教育関連資料や優れた学習指導案の閲覧	

⑫相模原市(さがみ風つ子教師塾)			
《日数》16日(10～3月)			
《開始年度》平成21年度			
《塾生に求める3つの学ぶ姿》教育の夢を語る 教師としてのやりがい学ぶ 同志の幅を広げる			
《各ステージのテーマ》			
第1ステージ「私が目指す教師像」 学校・教師の役割と期待される姿を考え、教育観を深める			
第2ステージ「相模原の子どもを考える(調査研究)」 今を生きる子どもを考え、理解する			
第3ステージ「よりよい授業のために(授業づくり)」 「学級づくりと授業づくり」について考え、実践力を高める			
第4ステージ「教師として・社会人として」 仲間との絆を深め、教育への夢と情熱を語る			
回	月日	午前	午後
1	10月4日	オリエンテーション 開講式 【講義】教師をめざすみなさんへⅠ	【演習】教師をめざす仲間と一緒に
	10月18日	【講義】教師の仕事Ⅰ ～これからの教師に求められること	【講義】教師のしごとⅡ ～現職教員からのエール
	10月25日	【演習】さがみはら教育の特色を知るⅠ ～体験活動をととして	【協議】教育への夢と情熱を語る 【演習】さがみはら教育の特色を知るⅡ ～体験活動をととして
	11月8日	【講義】子どもの夢をかなえるために	【協議】さがみはら教育の特色を知るⅢ ～体験活動をととして 【講義】教師をめざすみなさんへⅡ 「相模原市の特色を知る」 【協議】めざす教師像 【協議】第1ステージを振り返って
2	11月15日	【講義】相模原の子ども今日の課題を考えるⅠ	【研究】相模原の子ども今日の課題を考えるⅡ
	11月22日	【研究】相模原の子ども今日の課題を考えるⅢ ～レポート作成	【研究】相模原の子ども今日の課題を考えるⅣ ～レポート作成
	12月6日	【研究・協議】相模原市の子ども今日の課題を考えるⅤ～クラス別レポート発表と協議	
	12月20日	【研究・協議】相模原市の子ども今日の課題を考えるⅥ ～全体レポート発表会	【講義・協議】塾での学びと今の自分 【協議】第2ステージを振り返って
3	1月10日	【講義・演習】授業づくりの基本Ⅰ	【講義】授業づくりの基本Ⅱ ～優れた実践者から学ぶ
	1月17日	【講義・演習】よりよい授業をつくるⅠ	【講義】よりよい授業をつくるⅡ ～指導案作成のポイント
	1月31日	【演習・協議】よりよい授業をつくるⅢ ～授業の実践(模擬授業)	【協議】よりよい授業をつくるⅣ ～よりよい授業にするために
	2月7日	【講義・演習】学び合い高め合う授業をめざしてⅠ	【協議・演習】学び合い高め合う授業をめざしてⅡ 【協議】第3ステージを振り返って
4	2月14日	【講義】日本の未来を創る教育者としての役割	【パネルディスカッション】教育観を磨く ～今、教師に求められていること
	2月28日	【講義・演習】ブラッシュアップ教師力Ⅰ ～社会人として必要なこと	【講義・演習】ブラッシュアップ教師力Ⅱ ～表現力を高めるために
	3月7日	【講義・演習】ブラッシュアップ教師力Ⅲ ～教職への思いを忘れずに	【選択課題】今、自分に必要な力を伸ばす
	3月21日	【協議】教師をめざすこれからの自分 【協議】同じ志をもった仲間との語らい	【講義】塾生へのエール 閉講式

⑱横須賀市(よこすか教師 未来塾)		
《日数》14日(5～3月)		
《開始年度》平成23年度		
《目的》本市が目指す教師像、教育理念、実践的指導力等を伝授し、教職に対する強い使命感をもつ人材を育成する		
回	月日	内容(18:00～19:45)
1	5/16(金)	入塾式 ガイダンス 教師としての心がまえ ・塾での学びのガイダンス ・教師をめざす心得 ・自分の考えを相手に伝える教育論文の書き方1
2	5/30(金)	教師という道を選んで ・相手により印象をあたえるために1 ・神奈川県教育ビジョンについて ・自分の考えを相手に伝える教育論文の書き方2
3	6/6(金)	教師をめざすための取組～先輩教師から学ぶ1 ・教師をめざすための取組 ・相手により印象をあたえるために2
4	6/27(金)	子どもが自ら学びたいとなる授業とは～先輩教師から学ぶ2 ・模擬授業 ・子どもを引きつける「教材提示」や「指導技術」とは ・自分の考えを相手に伝える教育論文の書き方3
5	7/4(金)	教育の今日的な課題について ・いじめ・不登校の現状 ・特別支援教育
6	7/28(月)	授業づくり1～先輩教師から学ぶ3 ・授業づくりにのぞむ教師の姿勢 ・ヒトとして教師として(教職員の服務とマナー)
7	8/8(金)	学級担任として1 ・校種別 特別活動の指導法
8	9/19(金)	授業づくり2 ・子どもを引き付ける授業技術 ・授業づくりの考え方
9	10/17(金)	授業づくり3 ・授業のスキルアップ(板書、発問、教具、評価等) ・わかる授業のためのICT技術
10	11/14(金)	横須賀の教育の特色 ・地域教材を生かした授業づくり ・横須賀の外国語教育
11	12/12(金)	学級担任として2 ・学級担任の役割と実務 ・学級経営のポイント
12	1/23(金)	現場の教師として～4月の学級開きに向けて ・学級集団づくりに向けて ・4月の学級開きに向けて
13	2/13(金)	学級担任として3 ・学び続ける教師をめざして ・教師のためのプレゼンテーション
14	3/8(金)	卒塾式 ・1年間の振り返り ・修了証書授与

⑳静岡市(しずおか教師塾)		
《日数》21日(10～6月)		
《開始年度》平成21年度		
《目的》人間力と教師力を育てる ～人間力をみがく「人学(ひとまなび)講座」+教師力を高める「教官ゼミナール・教職専門演習講座」		
《プログラム》		
【第1ステージ／基礎講座】「ころざし」をみがく 教育現場に必要なことを観る眼を養う課程 小学校教員の使命や役割・社会や地域、保護者に対する接し方、社会人として必要な幅広い教養など、教育現場に必要とされる「人」について学習する 10/19(日)、26(日)、11/9(日)、16(日)、30(日)、12/13(土)～14(日)、21(日) ※入塾式10/19		
【第2ステージ／実践指導講座】「学級・授業」をつくる 教育現場に必要な専門的指導スキルを身に付ける課程 学級づくり・授業づくり・子ども理解など小学校教員として教科指導や学級経営に必要な専門性を高める学習をする 1/10(土)、24(土)、31(土)、2/14(土)、21(土)、3/7(土)、14(土)		
【第3ステージ／課題対応講座】「教育的ニーズ」にこたえる 教育現場に必要な実践的態度を養う課程 学級担任として、今日的な教育課題や多様な教育的ニーズに対応できる力を身に付ける学習をする 4/4(土)、18(土)、25(土)、5/9(土)、16(土)、6/7(土) ※卒塾式6/7		

②藤枝市(ふじえだ教師塾)					
《日数》前期12日(4～8月)・後期11日(10～3月)					
《開始年度》平成25年度					
《目的》人を育てるという職業のすばらしさと大切さの伝達、教職に就くことの誇りと気概の育成					
《研修内容》					
①藤枝の教育についての研修～教育委員や教職経験者、現任教員の体験談などの講話					
②こころざしを持った生き方を考える講話～社会人として、教師としてあるべき姿					
③授業づくり講座(全体)～よい授業のDVDを見て指導の大切さの獲得					
④藤枝の教育についての講話(全体)～「授業で人を育てる」講話、藤枝市の教委施策					
⑤教職専門演習(全体)～教育法規や教育課題、教師として基本的な教育観・子ども観・指導観					
○小中学校の学校参観					
《前期プログラム》			《後期プログラム》		
回	月日	内容	回	月日	内容
1	4/26(土)	入塾・開講式 生き方講話①	1	10/18(土)	入塾・開講式 生き方講話①
2	5/10(土)	教職専門演習①	2	11/1(土)	教職専門演習①
3	5/24(土)	教職専門演習②	3	11/15(土)	教職専門演習②
4	5/29(木)	教職専門演習③	4	11/28(金)	学校参観
5	6/7(土)	教職専門演習④	5	12/6(土)	教職専門演習③
6	6/12(木)	教職専門演習⑤	6	12/18(木)	教職の魅力講座
7	6/21(土)	教職専門演習⑥	7	1/8(木)	授業づくり講座
8	6/27(木)	教職専門演習⑦	8	1/24(土)	教職専門演習④
9	7/5(土)	教職専門演習⑧	9	2/7(土)	教職専門演習⑤
10	7/	学校参観	10	2/19(木)	藤枝の教育
11	7/31(木)	授業づくり講座	11	3/7(土)	教職専門演習⑥
12	8/2(土)	教職の魅力講座 藤枝の教育 閉講式			生き方講話② 閉講式
※土曜日は午後、木曜日は夜間					

②岡崎市(岡崎教師塾「允文館」)		
《日数》10日(4～2月)		
《開始年度》平成22年度		
《目的》岡崎市で活躍する教師の育成		
回	月日	内容
		開講式
1	4/19(土)	講座Ⅰ「教師の仕事と心構え」 講座Ⅱ「教員採用試験対策」～教職教養のポイント及び現代的教育課題
2	5/10(土)	講座Ⅰ「教員採用第一次試験対策～面接対策(集団)」 講座Ⅱ「グループ討議～教員採用試験への心構え」
3	6/7(土)	講座Ⅰ「教員採用試験第2次試験対策～面接対策(個人)」 講座Ⅱ「教員採用試験第2次試験対策～論文作成のポイント」
4	7/5(土)	講座Ⅰ「教員採用試験第2次試験対策～集団討議」 講座Ⅱ「教員採用試験第2次試験対策～小論文作成」
5	9/6(土)	講座Ⅰ「教えることと学ぶこと」 講座Ⅱ「岡崎の教育について」
6	10/11(土)	講座Ⅰ「学校現場で望まれる教師像」 講座Ⅱ「不登校・発達障がいの子供理解とその対応」
7	11/8(土)	講座Ⅰ「グループ討議～教育実習・学校現場実習での課題」 講座Ⅱ「授業の組み立て方」
8	12/6(土)	講座Ⅰ「よりよい生徒指導について考える」 講座Ⅱ「学級づくり」
9	1/17(土)	講座Ⅰ「学習環境づくり」 講座Ⅱ「グループ実習～掲示物づくり」
10	2/14(土)	講座Ⅰ「グループ討議～目指したい教師像」 講座Ⅱ「これから求められる教師の資質」 閉講式
※9月中旬から3月までの期間内で小中学校での現場実習の実施		

②③豊田市(教師養成講座)		
《日数》10日(5～2月)		
《開始年度》平成21年度		
《目的》現場に即した実践的な研修の実施		
回	月日	内 容
1	5月10日	開講式
		講話①「教師いとは」 ②「こんな教師になりたい」
		実習「学級開きを想定して実際に話してみよう」
2	6月7日	オリエンテーション「1時間の授業の組み立て」
		実習「模擬授業から学ぶ」
		討論「模擬授業を通して、授業づくりについて考えよう」
3	7月12日	講話「一人ひとりを見る教師～個への支援 特別支援の重要性」
		実習「様々な事例を通して、対応の仕方を考えよう」
4	8月2日	講話「学級担任の役割と実務～学級集団づくりと環境づくり」
		実習「テーマにあった掲示物を作ろう」
5	9月6日	講話「問題発生！そのときどう考え、どう行動するか！」
		実習「様々な場面を想定してロールプレイをしよう」
6	10月18日	講話「子どもを動かす体育の指導～理論編」
		実習「子どもを動かす体育の指導～実技編」
7	11月8日	講話「学習指導案の書き方 単元構想」
		実習「学習指導案を書いてみよう」
8	12月13日	講話「教師に必要な話し方～理論編」
		実習「教師に必要な話し方～実践編・トレーニング編」
9	1月17日	実習「プロ教師の授業に学ぶ」
		実習「内容別ワークショップ～授業づくりについて考えよう」
		討論「現任教諭と語り合う「理想の教師像」「これからの自分」
10	2月7日	～教師養成講座の先輩である教師からのメッセージ
		閉講式

②4名古屋市(なごや教師養成塾)		
《日数》21日(8～6月)		
《開始年度》平成20年度		
《目的》なごやの教師として即戦力となる人材の育成		
《講座の柱》		
《講演》幅広い知識・教養を学び、教師としての視野を広げながら、社会性や専門性を身に付ける		
《講義》市教育方針、家庭・地域の役割、地域課題等を学び、「なごやの教師」としての使命感を身に付ける		
《演習》日常的に起きる問題の解決に役立つ学習を通して、実践的な指導力・対応力を身に付ける		
《模擬授業》授業研究・実践・課題検討等を通して、子どもを育み、伸ばす「授業力」を身に付ける		
《フィールドワーク》校外学習時の引率方法や名古屋市の施設を学ぶとともに、塾生の交流・体験活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る		
回	月日	内 容
1	8月24日	【午前】入塾式 オリエンテーション 【午後】体験研修打合せ ホームルーム(塾生としての心構え)
2	9月7日	【午前】《講演》若きあなたたちへの期待 《講演》マスコミから見た教育 【午後】《講義・演習》社会人としてのマナー(理論) 《フリーディスカッション》こんな教師になりたい
3	9月21日	【午前】《講義・演習》授業づくりの基本(授業計画)(授業の実践) 【午後】《講義・演習》評価についての考え方 《講義》模擬授業の進め方
4	10月12日	【午前】模擬授業と検討会①② 【午後】《講義・演習》子どもとの関わり方 《講義・演習》子どもを校外に引率する際の注意
5	10月26日	フィールドワーク 子ども引率と実際～科学館
6	11月2日	【午前】模擬授業と検討会③ 《実習》示範授業検討会①～指導案の作成と留意点 【午後】《実習》示範授業と検討会②～示範授業を振り返って 《フリーディスカッション》授業と子どもの心や行動①
7	11月16日	【午前】《講義》いじめ・不登校等の理解 《講義・演習》虐待・非行等への対応 【午後】模擬授業と検討会④⑤
8	12月7日	【午前】《講義》保護者対応と教育相談の役割 《講義・演習》特別支援教育の実際と理解 【午後】模擬授業と検討会⑥⑦
9	12月21日	【午前】模擬授業と検討会⑧ 《講演》日本の子どもに欠けている自立教育 【午後】《講義・演習》子どもを引き付ける技術 《フリーディスカッション》4か月の活動を振り返って
10	1月11日	【午前】《講義・演習》人権意識を備えた教師 《講義・演習》学級開きで気をつけること 【午後】フィールドワーク 子ども引率と実際～博物館
11	1月25日	【午前】模擬授業と検討会⑨⑩ 【午後】《講義・演習》発達障害の理解と対応 ホームルーム(フィールドワーク振り返り)
12	2月8日	【午前】公開模擬授業 【午後】模擬授業と検討会⑪ 《講義・演習》日本語指導が必要な子どもへの対応
13	2月22日	【午前】模擬授業と検討会⑫⑬ 【午後】《講義・演習》道徳教育の実際と理解 《講義》名古屋の教育の歴史
14	3月8日	【午前】模擬授業と検討会⑭⑮ 【午後】《講義・演習》学校現場の実際と対応 《フリーディスカッション》私が見た教育現場
15	3月22日	【午前】模擬授業と検討会⑯ 《実習》示範授業検討会③～指導案の作成と留意点 【午後】《実習》示範授業と検討会④～示範授業を振り返って 《フリーディスカッション》授業と子どもの心や行動②
16	4月5日	【午前】離・着任式(ホームルーム) 《講演》子どものスポーツとけがの予防 【午後】模擬授業と検討会⑰⑱
17	4月26日	【午前】《講義・演習》なごやっ子の体力アップ 《講義》子どもに本の楽しさを 【午後】模擬授業と検討会⑲⑳
18	5月10日	【午前】《講義・演習》ICT活用と情報モラル 《講義・演習》学校における防災教育 【午後】模擬授業と検討会㉑㉒
19	5月24日	【午前】《講義・演習》社会人としてのマナー(実践) 《講義・演習》給食指導に関わる諸問題 【午後】模擬授業と検討会㉓㉔
20	6月14日	【午前】《講演》教師養成塾で学んだことを活かして 《講義》部活動の指導 【午後】《講義・演習》子どもと保健室 ホームルーム「1年間で学んだこと」
21	6月28日	【午前】《発表》体験研修報告会 卒塾式 【午後】ホームルーム お別れの集い
※上記講座以外に、児童との「ふれあい体験研修」、現役中堅教員による「授業力研修」も実施		

②5 京都市(京都教師塾)			
《開始年度》平成18年度			
《めざすもの》教師として求められる資質や実践的指導力の育成			
			○体感～教育に対する「厳しさ」とともに「喜び」を体感する
			○自覚～教育の果たすべき社会的責務を自覚する
			○理解～京都市教育の伝統を踏まえ、市民ぐるみで進める教育改革の理解を深める
			○探究～子どもたち一人一人を徹底的に大切にしたい授業の在り方を探求する
			○哲学～実践に裏付けられた教育に対する深い哲学を持つ
《京都教師塾の柱》			
《京都市教育学講座》共通必修7回 校種・職種別必修3回 特別公開講座6回(選択制)			
《京都市立学校実地研修》必修10日			
《授業実践講座》必修2回			
《フィールドワーク》課題別で選択			
《京都市教育学講座カリキュラム》			
回	月日		内 容
		午前	《入塾式》式辞／入塾宣言／オリエンテーション
1	10月25日	午後	講義)授業をデザインするとはどういうことか
特別		午前	講義)子どもたちが心豊かな人生を送るために～少年非行の現場から
2	11月8日	午後	パネルディスカッション)教師の喜びと厳しさ
特別		午前	講義)子どものいのちを守り育むための教師の役割
3	9月21日	午後	パネルディスカッション)先生をめざす塾生に期待すること～保護者の立場から
特別		午前	講義)学校における児童相談所との関わり
4	12月6日	午後	実践発表)子どもを豊かに育む教育
		午前	【中学校専門講座】講義)学級経営で育てる力～協働活動の視点から
5	12月20日	午後	【小学校専門講座】講義)小学校における学級経営～協働活動の視点から
		午前	【小学校専門講座】模擬授業)子どもが主体的に動き出す授業をめざして
6	1月10日	午後	【中学校専門講座】模擬授業)生きる力を育む道徳教育
特別		午前	講義)総合育成支援教育を考える～LD等支援の必要な児童・生徒に対する観察のポイント
7	1月24日	午後	実践発表)子どもを豊かに育む教育～総合育成支援教育の視点から
		午前	【高等学校専門講座】講義)高等学校における教師の実践
		午後	【養護教員専門講座】講義)もとめられる養護教員像
8	2月7日	午後	【総合支援学校専門講座】講義)総合支援学校の教育と教師の実践
		午後	【栄養教諭専門講座】もとめられる栄養教諭像
特別		午前	講義)学校における言語活動の充実に向けて
9	2月21日	午後	講義)校種間連携の意義について
特別		午前	講義)学校における教育相談の意義を考える
10	3月7日	午後	講義)市民・地域とともに進める京都の教育改革
《授業実践講座カリキュラム》			
1	4月11日	全日	講義)各校種の教科等における「授業づくりのポイント」 学習指導案作成)塾生一人一人による学習指導案の作成
2	5月16日	全日	模擬授業)塾生一人一人による模擬授業
	5月30日	全日	指導助言)指導主事からの専門的な指導助言
《卒塾式》			
	6月13日	午後	式辞／卒塾宣言

②⑥大阪市(大阪市教師養成講座)				
《日数》講座11日(9～3月)				
《開始年度》平成20年度				
《目的》学校現場で即戦力となる実践的な指導力をつけた大阪市の教員の育成				
「授業づくり」「子ども理解」の2つの柱				
《京都市教育学講座カリキュラム》				
回	月日			内 容
1	9月15日	月	午前	開講式 教育庁あいさつ、オリエンテーション、班別協議
2	9月28日	日	午前	授業づくり1-① 【小】教材研究の進め方、指導案の書き方(国語or算数) 【中】教科指導の進め方 【養】学校園での健康教育の進め方、保健指導について
3			午後	子ども理解1 子ども理解と学級づくりの基礎、班別協議
4	10月5日	日	午前	授業づくり1-② 【小】指導案づくり 【中】指導案づくり 【養】保健指導について
5			午後	子ども理解2 子どもをつなぐ学級集団づくり、班別協議
6	10月19日	日	午前	授業づくり2 【小】「道德教育」講師による模擬授業、講義 授業づくり1-③ 【中・養】受講生による模擬授業(保健指導)Ⅰ、研究協議
7	11月9日	日	午前	授業づくり1-③ 【小】受講生による模擬授業Ⅰ、研究協議 授業づくり2 【中・養】「道德教育」講師による模擬授業、講義
8	11月30日	日	午前	授業づくり3-① 【小】教材研究の進め方、指導案の書き方(国語or算数) 【中】専門教科の指導案づくり
9			午後	子ども理解3 保護者との関係づくり、ロールプレイ、班別協議
10	12月14日	日	午前	授業づくり3-② 【小】指導案づくり 【中】指導案づくり 【養】保健指導について
11			午後	子ども理解4 問題行動への理解と対応(いじめ・不登校等)、班別協議
12	1月12日	月	午前	子ども理解5 【小】特別支援教育、班別協議 授業づくり3-③ 【中・養】受講生による模擬授業(保健指導)Ⅱ、班別協議
13	1月18日	日	午前	授業づくり3-③ 【小】受講生による模擬授業Ⅱ、研究協議 子ども理解5 【中・養】特別支援教育、班別協議
14	2月15日	日	午前	めざす教師像 主席指導主事講話、班別協議
15	3月8日	日	午前	閉講式 修了証書授与、班別協議

②⑦堺市(堺・教師ゆめ塾)				
《日数》講座16日(10～6月)				
《開始年度》平成19年度				
《目的》学び続ける・ともに高め合う教職員としての姿勢を学ぶ				
《3つの柱》				
【指導力】あらゆる教育場面での指導力の育成をめざす専門講座				
【人間力】多彩な講座や現職教員とともに学ぶ講座				
【情熱】きめ細かな指導・スダン、なかまとも高め合うディスカッション				
《カリキュラム》				
回	月日		【午前】選択講座・専門講座	【午後】必修講座
1	10月11日	土		入塾式
2	10月25日	土	学校実習について	堺市教育講座① /オリエンテーション
3	11月8日	土	教育個人相談会	企業・社会人講座 /ホームルーム・ディスカッション(HR・D)
4	11月22日	土	堺学講座	堺学講座(堺の文化財めぐり等)
5	12月6日	土	理科実験教室 /茶の湯体験	人間関係講座①～教師をめざすとは /堺市教育講座②～特別支援教育 /HR・D
6	12月20日	土	教職基本講座①～子ども・保護者理解	堺市教育講座③～教育と福祉 /堺市教育学講座④～指導案の作り方 /HR・D
7	1月17日	土	専門講座①	人間関係講座②～話し方・伝え方 /HR・D
8	2月7日	土	専門講座②	堺市教育講座⑤～人権教育 /HR・D
9	2月21日	土	専門講座③	人間関係講座③～研究と修養 /HR・D
10	3月7日	土	専門講座④	授業づくり講座①～授業づくりの基本理念 /HR・D
11	3月14日	土	専門講座⑤	卒塾生に学ぶ /塾頭記念講演 /激励会
12	4月18日	土	教職基本講座②～学級経営	授業づくり講座②～子ども御つながら /HR・D
13	5月9日	土	情報教育実践	授業づくり講座③～実践者から学ぶ /HR・D
14	5月23日	土	模擬授業	模擬授業
15	6月6日	土	模擬授業	模擬授業
16	6月20日	土		卒塾式

②⑧豊中市(豊中「マチカネ先生塾」)			
《日数》①講座12日(6～1月) ②実地実習(3半日)			
《開始年度》平成25年度			
《目的》豊中市の教育についての理解の深まりや教員としての基本的な資質の向上を図る			
《講座プログラム》			
回	月日		内 容
1	6月7日	土	開講式 / 講話「マチカネ先生塾研修生に期待すること」 / 講義・演習「クラス開きに使えるゲームやエクササイズ」
2	6月21日	土	講義・演習 コミュニケーション力育成講座①「プレゼンテーション」
3	7月5日	土	講義・演習 コミュニケーション力育成講座②「プレゼンテーション」
4	8月2日	土	講義・演習 授業基礎力養成講座①「授業の基本」
5	8月16日	土	講義・演習 授業基礎力養成講座②「ミニ模擬授業」
6	10月25日	土	講義・演習 コミュニケーション力育成講座③「子ども・保護者との関わり方」
7	11月8日	土	講義・演習 授業基礎力養成講座③「校外学習・体験学習」
8	11月22日	土	講義・演習 コミュニケーション力育成講座④「子ども・保護者との関わり方」
9	12月6日	土	講話・演習 コミュニケーション力育成講座⑤「子どもと遊ぼう(なわとび)」
10	12月20日	土	講義・演習 授業基礎力養成講座④「教科等(読書活動)」
11	1月10日	土	講義・演習 授業基礎力養成講座⑤「先輩教員から学ぶ」
12	1月24日	土	閉講式 / 講話「第2期生のみなさんへ贈る言葉」 / 演習「詩集『のはらうた』を使って」

②⑨池田市(ふくまる教志塾)			
《日数》①ふくまる夢たまごセミナー10日(5～2月) ②現場実習30回(6月～)			
《開始年度》平成25年度			
《目的》教員として必要とされる資質や基礎的な指導力の育成を図る			
《ふくまる夢たまごセミナープログラム》			
回	月日		内 容
1	5月30日	金	開塾式・特別講演
2	6月20日	金	講義・協議「教育のまち池田」
3	7月18日	金	講義・協議「授業の基礎・基本」
4	8月22日	金	講義・協議「安全教育」
5	9月19日	金	講義・協議「池田市探訪」
6	10月17日	金	講義「子ども理解」(先輩に学ぼうPART1)
7	11月7日	金	講義「学級づくり」(先輩に学ぼうPART2)
8	12月12日	金	講義「授業づくり」(先輩に学ぼうPART3)
9	1月9日	金	講義・協議「指導案づくり」
10	2月20日	金	閉塾式・特別講演

③⑩箕面市(箕面市教員養成セミナー「びあ・カレッジ」)			
《日数》①セミナー10日(5～10月) ②学校実務体験実習(12～3月)			
《開始年度》平成24年度			
《目的》教員としての資質、基礎的な指導力、豊かな人間性・社会性などを兼ね備えた人材の育成			
《セミナープログラム》			
回	月日		内 容
1	5月17日	土	《箕面市・箕面の教育を知ろう》 開講式(教育長あいさつ・箕面の教育) 【講義】これからの教育に求められるもの 【演習】グループワーク
2	5月31日	土	《箕面の教育の取り組みを知ろう》 【講義】教員にもとめられるもの 【講義・演習】人間関係づくり～なぜ繋がるのが大切なのか考えよう 【講義】若手の私の授業実践報告
3	6月14日	土	《箕面の歴史や文化を知ろう》 【講義】箕面の歴史 【フィールドワーク】滝道を歩こう
4	6月27日	金	《小中一貫校の授業を見学しよう》 【講義】授業見学1・2(授業分析ワーク) 【講義】彩都の丘学園の実践報告 【演習】グループワーク(授業について学んだこと)
5	7月12日	土	《箕面の教育ビジョン》 【講義・演習】箕面の教育の基本、大阪の授業スタンダード 【講義】箕面市の支援教育・授業のユニバーサルデザイン化 【演習】授業づくりについて～人に伝えるまとめづくり
6	8月2日	土	《模擬授業に挑戦しよう》 【ガイダンス】演習の説明・模擬授業のポイント 【演習】模擬授業1・2 【演習】グループワーク～まとめ・代表者模擬授業
7	8月9日	土	《箕面の児童生徒支援について知ろう》 【講義】箕面市の生徒指導の取組 【講義】箕面市の支援体制 【演習】ケースワーク
8	9月6日	土	《箕面の人権課題や人権教育を知ろう》 【講義】暮らしづくりネットワーク北芝の取組 【講義】地域学習の実践 【演習】フィールドワーク・グループワーク～学んだことの交流
9	9月20日	土	《箕面市の情報教育を知ろう》 【講義】教育の情報化について 【演習】フューチャースクール体験授業 【演習】ICTのメリットと注意点～グループワーク
10	10月11日	土	《閉講式》 【模擬授業】10年経験者 【発表】一人ひとりのびあ・カレッジから学んだこと3つのキーワード発表 【グループ交流】びあ・カレッジを受講して学んだこと・これから取り組みたいこと 閉講式(塾長総括・修了証授与)

③⑪北九州市(北九州実践教師塾)			
《日数》①7日(6～11月)			
《開始年度》平成23年度			
《特性》主に学習指導や学級づくりに関する内容を実技や演習を通して学ぶ			
(若手教員や講師の研修の機会に学生も参加可の措置)			
《プログラム》			
回	月日		内 容
1	6月14日	土	学習指導力向上シリーズNo.1 泳げるようになる喜びを子どもと共に！安全で楽しい水泳指導のポイント
2	6月28日	土	北九州芸術劇場を活用したサテライト講座 芸術体験！北九州芸術劇場で演劇ワークショップ ～学習発表会・文化発表会を充実したものにするために(20名限定)
3	9月27日	土	学級づくりシリーズNo.5 計画委員会の秘訣教えます！子どもがマジ(本気)になる学級会
4	10月11日	土	学習指導力向上シリーズNo.3 教師も楽しい！子どもが飛びつく理科実験・実技講座
5	10月18日	土	学習指導力向上シリーズNo.5 ノウハウ教えます！楽しみながら、子どもの運動能力を伸ばす指導法
6	11月8日	土	部活動指導応援講座 楽しみながら実力アップ！部活動指導のテクニック(バスケットボール部編)
7	11月15日	土	いのちのたび博物館を活用したサテライト講座 必見！いのちのたび博物館活用法

5 その他

(1) 既存授業の検討

本学部の授業を「実践的教師力の育成」という視点で分析・考察する必要性を強く感じていたが、本調査研究期間内にその余裕がなく、実施できなかった。

しかし、いくつかの授業については、アンケート調査での回答において挙げられた「教員を目指す学生が大学を卒業するまでに身につけておくべき『資質能力』」の向上に資するものであることが確認できた。例えば「人間関係づくり演習（学部）」「授業づくり演習（学部）」「学級経営研究（院）」等である。

学校現場等の声を参考にし、学部の教員養成カリキュラムでどのような資質能力をどのように育成するかを明確にして、個々の授業で育成する資質能力を位置付けることを今後進めていくことが重要であると考えます。

(2) 他大学の実践的教師力育成プログラム

他大学において実践的教師力に焦点を当てている教員養成プログラムが多々あると思うが、本調査研究期間内にその情報を集めるまで至らなかった。その中で唯一、山口大学教育学部が実施している「ちゃぶ台プログラム」を訪問して実際のプログラムを見学し話を伺う機会を得た。

【月日】平成26年12月26日（土）

【内容】ICTを活用した教育実践（ちゃぶ台次世代コーホート）

「若手教員(本務者・臨時的任用教員)」や「教職を目指す学生」、「山口県教師力向上プログラム」（教師力養成講座）受講者等が山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」に集い、活発に学び合う活動の蓄積に感銘を受けた。他大学への調査を推進しつつ、このような取組を積極的に取り入れていくことが極めて重要であろう。

(3) 授業力DVD教材の活用

平成25年度に（独）教員研修センター「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」委嘱事業の中で作成した教員研修DVD教材「授業力の『見える化』」（7枚組9授業）を、大学の授業（「教育方法・技術（学部）」「授業づくり演習（学部）」「授業経営研究（院）」等）で使用したところ、学生にも有効であることがわかった。

そこで、本学部の学生が必要に応じて広く活用できるよう、各教室に1セットずつ配付した。また、教員研修教材として配付希望があり送付した他県教育委員会や他大学から「教員だけでなく学生の学びにも有効」との声をいただいたことから、本調査研究で訪問調査させていただいた各都道府県教育機関にも1セットずつ渡し、活用いただけるようにした。

本調査研究期間内は頒布で終わってしまったが、今後、活用の状況や効果等について調査を行うことが必要であると考えている。

Ⅲ まとめ

本調査研究では、①教員志望学生を対象とした「実践的教師力育成講座」の実施、②「教員を目指す学生が大学を卒業するまでに身に付けておくべき資質能力」に関するアンケート調査、③全国教育委員会等「教師塾」活動調査、の3つを大きな柱として調査研究活動を行ってきた。以下、それぞれについて成果と課題を簡潔に述べる。

①実践的教師力育成講座

3年生後期の第1クールから卒業直前までの第4クールまで、1年半の期間にわたるプログラムを構成し展開した。これらを一連のものとして構成することで、教員採用試験をその過程の中に位置付けつつ、受講生が教職生活の理解を深めながら実践的教師力を身に付け、卒業後の教職生活において自分らしさ・よさを生かしながら「即戦力」としての力を発揮していくことにつながるよう考えた。例えば第3クールは「教員採用2次セミナー」として千葉県教員採用2次選考の内容を扱いつつ、その合格を目的とするのではなく、教師力獲得・発揮の1ステップとするというものである。

本講座は、②の調査による学生や学校等からの求め、③の調査における各所の活動とも内容的整合性が高いものであることがわかった。受講生からの評価は高く、実践的教師力獲得の上でも有効であったことが認められた。また、受講生の卒業後4月からの教職生活に向けた理解やモチベーションの向上にもつながった。

教員採用試験合格の向上、学校現場で力を発揮できる教員の養成が学部で求められる中で、今後、本講座をベースに本学部としての取組を進めていく方向性が出されたことも、大きな成果といえる。

②「資質能力」アンケート調査

教員を目指す学生自身、学校職員、指導主事を対象としてアンケート調査を実施した。得た回答から、教育現場から大学での教員養成への求めが浮き彫りになったといえる。大学では、この結果をどう受け止め、教員養成カリキュラムにどう反映させていくかが問われる。

③全国「教師塾」活動調査

全国31都道府県市の「教師塾」活動を訪問調査し、その内容をまとめることができた。実施プログラムを見るだけでも、様々なバリエーションでの展開の中に「即戦力としての実践的教師力育成」という共通性が見られた。また、全国的に大きな課題である「教員養成・採用・研修の連関性」「初任者を含む初期層教員の資質能力向上」に大きくつながると思われる。しかし、それらの比較や類型化、他の調査項目も含めた詳細な分析・考察までは、本調査研究期間の中ではとても行き着かなかった。

単年度の研究期間の中で、大学での既存授業についての「実践的教師力」の視点からの考察や、他大学の実践的教師力育成プログラム調査等についても、さわりで終わってしまった点、残念である。しかし、「実践的教師力の育成」が大学での教員養成の重要な鍵であることが明らかになったことは、本調査研究の成果であると考えられる。今回達成できなかった課題も含め、今後の研究につなげていきたい。

最後に、本調査研究に関して多大なご協力をいただいた関係の皆様へ深く感謝致します。

平成26年度文部科学省総合的な教師力向上のための調査研究事業

「大学における教員志望学生を対象とした

「実践的教師力育成プログラム」の開発」研究 実施報告書

平成27年3月30日

研究代表者：佐瀬 一生

連絡先：〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33

千葉大学教育学部 附属教員養成開発センター